

議題：第23号

甲府市立甲府商科専門学校学則の一部改正について（原案）

1 改正理由

国では、職業に結びつく実践的な知識・技能・技術や資格の修得に向けて、リスキリング・リカレント教育を含めた職業教育の重要性が高まっていること等を踏まえ、専門学校における教育の充実を図るため、法制度を高等教育機関である大学等と同様に「単位制」及び「入学資格」を改めたことから、「甲府市立甲府商科専門学校学則」について、所要の改正を行う。

2 改正内容

- ・第9条第1項中「科目、」を「科目及び」に改め、「及び授業時数」を削り、同条第2項中「68単位」を「62単位」に改め、「とし、授業時数の合計は、1,700時間以上」を削る。
- ・第10条第1項中「授業時数を満たし、かつ」を削る。
- ・第11条各号を次のように改める。
 - (1) 高等学校又はこれに準ずる学校を卒業した者
 - (2) 中等教育学校を卒業した者
 - (3) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第183条の規定により前2号に規定する者と同等以上の学力があると認められた者
- ・第16条第3項中「34単位」を「31単位」に改める。
- ・第18条第1項中「甲府市立甲府商科専門学校授業料、入学料及び入学検定料条例」を「甲府市立甲府商科専門学校授業料等に関する条例」に改める。

3 施行期日

この規則は、公布の日から施行する。

ただし、第9条、第10条第1項、第11条及び第16条第3項の規定は、令和8年4月1日以後において、1学年の学生となった学生（転入その他の理由によりこれと同等とみなされる者を含む。）について適用し、これ以外の学生については、なお従前の例による。

4 教育委員会への提案

令和8年9月定例教育委員会において提案（9月16日開催）

議題：第23号

甲府市立甲府商科専門学校学則（平成3年教育委員会規則第2号）新旧対照表

改正後（案）	現行
○甲府市立甲府商科専門学校学則 平成3年1月14日 教委規則第2号 第1条～第8条 略 （修得単位数） 第9条 校長は、卒業までに修得させる科目及び単位数_____を定める。 2 前項に規定する単位数の合計は、<u>62単位以上</u>_____とする。 （卒業） 第10条 校長は、_____前条の規定により定められた単位数を修得した2年以上在学した者に対して、全課程の修了及び卒業を認定し、卒業証書を授与する。 2 校長は、特別の事情があり、かつ、教育上支障がないときは、学年の途中においても、学期の区分に従い、各学年の課程の修了及び卒業を認定することができる。 3 校長は、卒業を認定した者に対して、商業実務専門士の称号を授与する。 第6章 入学・退学・編入学・留学及び休学	○甲府市立甲府商科専門学校学則 平成3年1月14日 教委規則第2号 第1条～第8条 略 （修得単位数） 第9条 校長は、卒業までに修得させる科目、<u>単位数及び授業時数</u>を定める。 2 前項に規定する単位数の合計は、<u>68単位以上とし、授業時数の合計は、1,700時間以上</u>とする。 （卒業） 第10条 校長は、<u>授業時数を満たし、かつ</u>前条の規定により定められた単位数を修得した2年以上在学した者に対して、全課程の修了及び卒業を認定し、卒業証書を授与する。 2 校長は、特別の事情があり、かつ、教育上支障がないときは、学年の途中においても、学期の区分に従い、各学年の課程の修了及び卒業を認定することができる。 3 校長は、卒業を認定した者に対して、商業実務専門士の称号を授与する。 第6章 入学・退学・編入学・留学及び休学

議題：第23号

(入学資格)

第11条 本校に入学する資格を有する者は、次の各号のいずれかに該当する者で、本校が行う入学試験に合格した者とする。

- (1) 高等学校又はこれに準ずる学校を卒業した者
- (2) 中等教育学校を卒業した者
- (3) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第183条の規定により前2号に規定する者と同等以上の学力があると認められた者
- (4) 削る

第12条～第15条 略

(退学・留学・休学)

第16条 学生が退学、留学又は休学をしようとするときは、その理由及び期日を明記し、保証人署名の上、校長に申請しその許可を受けなければならない。

- 2 留学及び休学の期間は、3月以上1年以内の連続した期間とし、その期間を変更しようとするときは、前項に準じて許可を受けなければならない。
- 3 校長は、教育上有益と認め、留学を許可した学生について、外国の学校における履修を本校における履修とみなし、31単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

(入学資格)

第11条 本校に入学する資格を有する者は、次の各号のいずれかに該当する者で、本校が行う入学試験に合格した者とする。

- (1) 高等学校_____を卒業した者
- (2) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者
- (3) 文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験(旧大学入学資格検定を含む。)に合格した者
- (4) その他本校において高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

第12条～第15条 略

(退学・留学・休学)

第16条 学生が退学、留学又は休学をしようとするときは、その理由及び期日を明記し、保証人署名の上、校長に申請しその許可を受けなければならない。

- 2 留学及び休学の期間は、3月以上1年以内の連続した期間とし、その期間を変更しようとするときは、前項に準じて許可を受けなければならない。
- 3 校長は、教育上有益と認め、留学を許可した学生について、外国の学校における履修を本校における履修とみなし、34単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

議題：第23号

第17条 略

(授業料等)

第18条 授業料・入学料及び入学検定料の額並びに徴収方法については、甲府市立甲府商科専門学校授業料等に関する条例

(平成2年7月条例第32号)の定めるところによる。

2 校長は、授業料の納付の義務を怠り、督促を受けてもなお納付しないときは、学生に対し、出席停止を命ずることができる。

3 校長は、前項の規定により出席停止を命じたにもかかわらず、なお授業料を納付しない学生については、除籍することができる。

附 則

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則による改正後の第9条、第10条第1項、第11条及び第16条第3項の規定は、令和8年4月1日以後において、1学年の学生となった学生（転入その他の理由によりこれと同等とみなされる者を含む。）について適用し、これ以外の学生については、なお従前の例による。

第17条 略

(授業料等)

第18条 授業料・入学料及び入学検定料の額並びに徴収方法については、甲府市立甲府商科専門学校授業料、入学料及び入学検定料条例（平成2年7月条例第32号）の定めるところによる。

2 校長は、授業料の納付の義務を怠り、督促を受けてもなお納付しないときは、学生に対し、出席停止を命ずることができる。

3 校長は、前項の規定により出席停止を命じたにもかかわらず、なお授業料を納付しない学生については、除籍することができる。

【新設】

【新設】

【新設】

議題：第 23 号

甲府市立甲府商科専門学校学則の一部を改正する規則をここに公布する。

令和 8 年 月 日

甲府市教育委員会

教育長 松 田 昌 樹

甲府市教育委員会規則第 号

甲府市立甲府商科専門学校学則の一部を改正する規則

甲府市立甲府商科専門学校学則（平成 3 年 1 月教委規則第 2 号）の一部を次のように改正する。

第 9 条第 1 項中「科目、」を「科目及び」に改め、「及び授業時数」を削り、同条第 2 項中「68 単位」を「62 単位」に改め、「とし、授業時数の合計は、1,700 時間以上」を削る。

第 10 条第 1 項中「授業時数を満たし、かつ」を削る。

第 11 条各号を次のように改める。

- (1) 高等学校又はこれに準ずる学校を卒業した者
- (2) 中等教育学校を卒業した者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）第 183 条の規定により前 2 号に規定する者と同等以上の学力があると認められた者

第 16 条第 3 項中「34 単位」を「31 単位」に改める。

第 18 条第 1 項中「甲府市立甲府商科専門学校授業料、入学料及び入学検定料条例」を「甲府市立甲府商科専門学校授業料等に関する条例」に改める。

附 則

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- 2 この規則による改正後の第 9 条、第 10 条第 1 項、第 11 条及び第 16 条第 3 項の規定は、令和 8 年 4 月 1 日以後において、1 学年の学生となった学生（転入その他の理由によりこれと同等とみなされる者を含む。）について適用し、これ以外の学生については、なお従前の例による。

報告：第 1 1 号

令和 8 年度

教育委員会総合教育視察結果の集約

◇視察日時

令和 8 年 6 月 1 9 日（金）

◇視察目的

学校経営についてその管理運営や指導体制のあり方を確認する。加えて、児童生徒の学校生活の様子を把握する。

◇視察の観点

- ・学校経営（学校の特色、児童生徒の様子、生徒指導体制、信頼される学校づくり 等）
- ・防犯体制（児童生徒の安全管理、安全確保・不審者侵入時の危機管理 等）
- ・備品等の管理状況の確認（一人一台端末保管状況、薬品庫 等）

◇視察報告の集約

- 1) 学校経営全般
- 2) 防犯・施設管理体制
- 3) 備品管理体制
- 4) その他

1) 学校経営全般

○学校全体の様子や学校運営について

- ・学校の特色を生かして、全職員が一丸となって児童の学びを支える環境づくりに取り組んでいる。
- ・明るくあいさつが交わされ、落ち着いた感じだった。
- ・全体的に落ち着いて学習に取り組んでいた。また、元気にあいさつする児童が多い。
- ・どの児童にも居場所があり、落ち着いた環境、温かい雰囲気の中で学校生活を送っていた。先生方と児童との良好な関係の中で、先生方に応えようとする児童の思いが伝わってきた。
- ・落ち着いた環境の中で生き生きと学校生活を送っていた。
- ・明るい表情で、気持ちのよい挨拶ができる生徒が多かった。どの生徒も身なりや机の周りが整っていて、落ち着いたよい印象を受けた。
- ・温かな雰囲気の中で学習に取り組んでいた。仲良く互いに学び合う様子が見られた。

○児童生徒の様子について

- ・挙手や発言も活発で、前向きに生き生きと取り組んでいた。集中して先生方の指示を

報告：第11号

よく聞き、活動への取り組みが素早くできていた。

- ・学習規律やルールがしっかりと身に付いていた。指示をよく聞いて素早く課題に取り掛かり、集中して学習に取り組んでいた。挙手や発言も多く、積極的に取り組んでいた。
- ・どの学習にも集中して取り組んでいた。挙手や発言もあり、前向きに取り組む姿が見られた。グループ学習でも、協力しながら取り組んでいた。
- ・落ち着いた様子で学習に取り組んでいた。また、生徒の意見や返事も活発で、意欲的に授業に参加していた。
- ・グループ学習に明るく生き生きと全員参加していた。生徒間でも教えあう姿も見られた。一人一台端末と教科書、教材を使い分け、自ら学ぶ姿勢がみられた。全体的に明るく、真剣な良い雰囲気であった。

○不登校対応について

- ・不登校、不登校傾向等の児童が数名いるが保健室登校を経て通学が可能になった例もあった。
- ・中学校にあるほっとルームを参考に「ミニほっとルーム」を開設したり、3～4校時帯に不登校傾向の児童にプレイルームを解放したりしている。
- ・特別な支援を必要とする生徒が増加している。教室不足が心配である。
- ・小学1年生の児童に「きもちメーター」の入力法などを、丁寧に繰り返し説明していた。子どもからの「毎日同じじゃん」という声にも、毎日入力することの意味を説明していた。この説明が、後々の活用につながると感じた。
- ・ほっとルームは、非常階段から出入り可能で、立地が良い。清掃が行き届き、整理整頓されていた。
- ・不登校ゼロは、どの児童も安心して学校生活を送ることができる先生方の地道な取組と、協力的な家庭や地域との連携によると思う。

○生徒指導について

- ・以前のいじめ重大事態の発生を受けて、管理職への報告、いじめ防止対策委員会の定期的な開催など、体制の見直しを図った。管理職への連絡を徹底すること、家に帰る前に解決することを徹底することが、今の落ち着いた体制につながったと思う。
- ・SNS講演会を5、6年生向けに開くなど、課題に対しての意識が非常に高い。
- ・様々な課題に対して学年間で共有し連携体制をとり、特に支援を要する学年には全校体制で児童への指導に取り組んでいる。
- ・教科担任が授業をしている中で、教室で仕事をしながら生徒やクラスの様子を見ている担任の先生がいた。日々の学級担任の取組が落ちついた学習基盤となっていると感じた。
- ・一つの学年の教室が複数のフロアーに分かれてしまうのは校舎の構造上やむを得ないが、生徒指導上課題である。

○特別な配慮が必要な児童生徒の支援について

- ・特性のある子に対して、すてっぷやSC、精神保健センターと連携するなど、組織としての対応が行われている。
- ・特性のある子どもたちが増えている中で人権教育と思いやりの心の育成に重点を置いている。また、特別な支援が必要な児童や生徒指導上課題のある児童がおり、支援体制をとっている。
- ・特別支援学級は、特別なテキストで楽しく学べている様子が伺えた。視察時は穏やかな様子だったが、日により大きく異なるとのことであった。
- ・特別支援学級では、個に応じた課題に取り組ませ、丁寧な指導が行われていた。
- ・情緒障害児童のクラスでは児童の気持ちの安定の難しさを感じるとともに通常学級内での支援を必要とする児童の対応が困難に感じた。
- ・知的障害、情緒障害、肢体不自由、難聴の4つの支援学級がある。家庭環境や生活習慣に問題を抱える児童が複数いる。また保健室登校の児童もいるなど、支援の必要な児童が多岐にわたる中でスクールカウンセラーが重要な役割を担っている。

報告：第11号

- ・不登校、外国籍児童が多い。また、サポートルームがあり、児童養護施設からの児童もいる。手厚く見ていく必要のある児童が規模にしては多い。
- ・普通学級にも支援の必要な児童は多く、児童の状況も多様化している。

○ICT教育の推進について

- ・学年に合わせたICTの活用をしている。小学1年生は気持ちメーターを嬉しそうに入力していた。また、他の学年では写真を撮り、観察日記として活用していた。
- ・一人一台端末を使ったり、ワークシートを使用したりして、ねらいにあった授業を展開しようとしている意図が伺えた。
- ・中学3年生は一人一台端末と教科書、教材を使い分け、自ら学ぶ姿勢がみられた。

○地域との連携について

- ・各学校で地域連携を意識した取組が進められている。
- ・学校が地域に開かれており、学習や登下校などの地域住民のボランティアによるサポートがある。
- ・地元のぶどう園での総合的な学習、水泳、タグラグビー、林間学校の応援など地域連携が継続的に行われている。
- ・ふるさとを軸に地域の良さを知り、体現する学習を6年間かけて深めている。
- ・地域住民の方が子どもを守ろうとする気持ちが強いので、理解・協力体制がある。
- ・クラブ活動の指導員など、地域の方が積極的に学校教育に携わってくれている。

○保護者対応について

- ・多様な特性や背景を持つ児童が多いことから、保護者と連携を深める必要があるが、関係性を築くのが難しいことがある。
- ・保護者対応に先輩の先生方がサポートしているとの話だった。今後も、学校現場にて若い先生方を温かく育む環境を継続してほしい。
- ・保護者対応に悩まされているとのことであったので、先生方のケアも引き続きお願いしたい。
- ・学校便りは校内の情報発信とともに地域、家庭との連携を強く感じる内容である。家庭に取り込めるメッセージがあふれていた。

2) 防犯・施設管理体制

○防犯体制について

- ・地域の駐在警察官との連携が良く取れており、子どもの安全が図られている。避難経路の掲示、防犯カメラの運用も問題はない。
- ・町中の学校であるが、登下校時等の安全について、警察や地域等の協力も得られている様子がある。ただし、地域の後継者の問題などがあるとのことであった。
- ・校舎入口の鍵の施錠管理や玄関モニターによる監視がきちんとされている。
- ・山間部に立地し、遠隔地から通学する児童が多数を占めるため、気象情報や災害情報の収集に努め、迅速な対応を図る必要がある。
- ・学区が広く交通量も多いことから、児童の登下校時の安全確保に努める必要がある。

○施設・設備について

- ・自転車置き場の屋根、防球ネット、プールの濾過器、無線LANの整備など、学校からの要望に対し、設備を整えている様子が見られた。
- ・理科準備室の蛍光灯ソケットに一部破損が見られた。生徒が出入りする部屋ではないが、危険な状況であるため、修繕を要する。

報告：第11号

3) 備品管理体制

○備品管理について

- ・多くの学校で、理科室の薬品や図工室、家庭科室の刃物類の管理状況、一人一台端末の充電庫の鍵の管理については適切に管理されていた。
- ・使用簿が担当者の確認印のみの学校があったため、管理職が学期ごとに検印して確認をするように指導が行われた。

4) その他

○教員の育成について

- ・全ての教師が、「1人1実践」として授業を公開し、互いに学び合う機会を持つことは、教員の年齢構成の偏りがある中で良い取組だと思う。
- ・若手と中堅の学び合いを意識した学年経営がなされている。教科担任制は教員の専門性を発揮する機会となっている。
- ・経験年数の浅い先生が全級の半数を占めているが、職員数が少ないのが利点となり密なコミュニケーションが取れている。
- ・若手と中堅の教員が学び合う環境が作られている。

○家庭学習・学習習慣について

- ・学校独自の取組である自主学習ノートの質を向上させ、家庭学習の充実を目指している。
- ・ノート指導がよくできていた。「甲府スタイル」につながる全校的な指導の一貫性が感じられた。

取扱注意

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査

甲府市における調査結果のポイント

・・・・・・・・ も く じ ・・・・・・・・

1	調査の本市の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
2	教科に関する調査の本市の結果について	・・・・・・・・	P 2
3	質問調査の本市の結果について	・・・・・・・・	P 17
4	資料 1	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 36
5	資料 2	・・・・・・・・・・・・・・・・	P 43



甲府市教育委員会 学校教育課

1 調査の本市の概要

(1) 実施日 令和 8 年 4 月 2 3 日 (木)

(2) 調査内容

○実施学年 小学校第 6 学年、中学校第 3 学年

○調査内容

〔教科に関する調査〕

小学校・・・国語、算数

中学校・・・国語、数学、英語 (CBT/IRT)

※CBT (Computer Based Testing) とは、コンピュータを使った試験方式のこと。
※IRT (Item Response Theory) とは、異なる問題で構成される試験・調査の結果を、
同一尺度で比較可能にする統計理論。PISA、TIMSS といった国際的学力調査や、
TOEIC、TOEFL などの英語資格・検定試験で採用されている。

◇出題内容

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

〔生活習慣や学習環境等に関する質問調査〕

◇児童・生徒質問調査 (小・中学校)

- ・調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

◇学校質問調査 (小・中学校)

- ・学校を対象とした、指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(3) 参加状況

校 種	参加学校数	参加学年	参加人数
小学校	2 5 校	6 年生	1 1 3 8 人 (国)
			1 1 4 0 人 (算)
中学校	1 1 校	3 年生	1 0 6 7 人 (国・数)
			1 0 3 8 人 (英)

2 教科に関する調査の本市の結果について

(1) 全体の結果 【平均正答率で見た甲府市の状況：全国・山梨県との比較】

		小学校(6年生)		中学校(3年生)		
		国語	算数	国語	数学	英語
全 国		60.9	56.4	63.9	57	49.9
山梨県		60	53	63	56	49.3
甲府市	国との比較	○	△	△	△	△
	県との比較	○	○	△	○	○

※表の見方：○は同じかあるいは上回っている、△は下回っている

※中学校英語は、CBT 実施のため、IRT スコアにて数値を算出。%ポイントでの算出不可

◇全体の概要

○教科に関する調査の平均正答率及び IRT スコアは、小学校は国語において全国を同じかあるいは上回っている。中学校は全ての教科(国語・数学・英語)において全国を下回った。

〔小学校〕

- ・国語において、全国平均正答率及び県平均正答率を同じかあるいは上回っている。算数においては、全国平均正答率を下回っているが、県平均正答率との比較では、同じかあるいは上回っている。

〔中学校〕

- ・国語においては、全国平均正答率及び県平均正答率を下回っている。数学においては、全国平均正答率を下回っているが、県平均正答率との比較では、同じかあるいは上回っている。英語においては、全国平均 IRT スコアを下回り、県平均 IRT スコアとの比較では、同じかあるいは上回っている。

報告：第 1 2 号

(2) 各教科の結果

■ 小学校国語

【全国平均正答率より 3 ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2 三イ +8.7P	【花山さんの文章の一部】の下線部イを、漢字を使って書き直す（ふしぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 年 言葉の特徴や使い方に関する事項 エ	

【正答率が 40 %に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2 四 36.0% (国 33.5%)	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	5・6 年 書くこと エ	

【本市の傾向・課題】

- 平均正答率については、全国及び県を同じかあるいは上回る結果だった。
- 知識・短文問題や前半の問題での無解答率は県や国と比較して低い傾向にある。一方で後半の複雑な文章読解や情報整理の問題では、無解答率が国や県と比較して高い傾向にある。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」は、全国及び県を上回る結果となった。「話すこと・聞くこと」では、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら話の構成を考えることや、資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫することが全国や県を上回っている。一方、「書くこと」は全国や県を上回るものの、平均正答率の低さに課題が見られる。特に正答率が 40%を下回った「2 四」のように、集めた情報を活用して考えが伝わるように書き表すことに課題がある。
- 「読むこと」は、県をわずかに上回ったが、全国を下回っている。文章の読解内容を自身の経験と結び付けてまとめる問題では、県及び全国を下回った。
- 「3 二」（メモの整理についての理解）や「3 三（1）」（話し合いの文脈・関係理解）など、情報相互の関係や文脈をとらえる問題に課題がある。
 - ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる「3 二」
 - ・目的に応じて、必要な情報を見つけることができるかどうかをみる「3 三（1）」
- 学年別漢字配当に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題では、県を上回る、全国とは同率もしくは上回るものの、「ふしぎ」を書く設問は正答率が低く課題である。「みじかーい」を書く設問の正答率は高かった。

【改善のための方策】

○集めた情報の構造化と、情報と情報の関係について理解する指導の充実

- ・主張と根拠（理由や事例）など、情報と情報との関係について理解するために、考えがどのような理由や事例によって支えられているかを、他者と意見交換したり、読み手視点に立って振り返ったりしながら吟味することが重要である。
- ・図示などにより語句と語句との関係を表したり、ベン図やウェビングなどの思考ツールを活用したりして、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解できるように指導を行うことが重要である。

○文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめる指導の充実

- ・文章を読んで自分の考えをまとめるためには、文章の内容や構成を吟味しながら考え、理解を深め、理解した内容と既存の知識を結びつけて、自分の考えをまとめることができるよう指導することが重要である。

○目的に応じて必要な情報を見つける指導の充実

- ・目的に適した情報を探し出すには、書き手の述べたいことを知るために読む、読み手の知りたいことを調べるために読むなど、読書目的に合わせて情報を吟味し、必要な要素の選り分け、整理、再構成を行うことが重要である。

○文脈の中での意味理解と伴う漢字指導

- ・漢字練習、漢字ドリルなどの反復練習に加え、言葉の意味や成り立ち、対義語・類義語とセットで指導したり、「短い文づくり」を取り入れたりするなど、文脈の中で漢字を正しく使う漢字学習を行うことが効果的である。

■ 小学校算数

【全国の平均正答率より 3 ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1 (2) -6.2P	直方体の箱の形の六つの面のうち、四つの面が示されたとき、残りの二つの面の縦と横の長さを書く	直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる	2 年 4 年 図形 【知識・技能】	
1 (3) -5.0P	1 立方センチメートルの立方体を 3 6 個使ってできた直方体の体積を書く	体積の意味について理解しているかどうかをみる	5 年 図形 【知識・技能】	
3 (2) -3.4P	数のどちらが 5 に近いかを判断するために、 $6.37 - 5$ と $5 - 3.76$ を計算する	整数と小数の減法の計算をすることができかどうかをみる	4 年 数と計算 【知識・技能】	H24 A 1 (3)
4 (3) -4.3P	二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し後半はあやとりに参加する人数を書く	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	4 年 データの活用 【知識・技能】	R 3 3 (3)

【正答率が 4 0 %に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1 (3) 35.1% (国 40.1%)	1 立方センチメートルの立方体を 3 6 個使ってできた直方体の体積を書く	体積の意味について理解しているかどうかをみる	5 年 図形 【知識・技能】	
2 (3) 37.3% (国 36.1%)	ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる	5 学 変化と関係 【思考・判断・表現】	H30 A 4 (2)
2 (4) 31.8% (国 34.2%)	赤いテープの長さが、白いテープの長さの 1. 5 倍になっている図を二つ選ぶ	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	4 年 数と計算 5 年 変化と関係 【知識・技能】	
4 (3) 13.6% (国 17.9%)	二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し後半はあやとりに参加する人数を書く	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	4 年 データの活用 【知識・技能】	R 3 3 (3)

【本市の傾向・課題】

- 本市の結果の傾向は、全国及び県の平均正答率とほぼ同等の結果となった。無解答率については、全国及び県と比較すると低く、年々改善傾向にある。
- 「数と計算」領域では、すべての問題において全国及び県とほぼ同等の結果であったが、整数と小数の減法の計算「3（2）」の正答率は約半数であり、全国の平均正答率を下回る結果であった。
- 「図形」領域では、直方体の箱の形を構成する面についての理解及び体積の意味について「1（3）」の理解に課題が見られた。両問で全国の平均正答率を下回る結果であった。
- 「測定」領域では、日常生活に必要な時刻や時間を求めるという1問「4（2）」のみの出題であったが、平均正答率では県を上回り、全国とはほぼ同等の結果であった。
- 「変化と関係」領域では、単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解して、その商を根拠に混み具合を判断する問題「2（3）」では、全国及び県の平均正答率を上回る結果であった。また、基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶ問題「2（4）」についても、県の平均正答率を上回る結果であった。
- 「データ活用」領域では、示された二つの表から、集計の誤りを見つけ、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述する問題「4（1）」及び帯グラフの特徴と用い方を理解して、およその割合を読み取る問題「4（4）」共に県及び全国の平均正答率を上回る結果であった。

【改善のための方策】

○「数と計算」に関する指導の充実

- ・小数の減法の計算では、計算の仕方を考える活動の過程で、整数の場合と同じ原理、手順でできていることを理解できるようにすることや、計算の結果の見積りや確かめができるようにする指導が大切である。
- ・基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶ問題では、日常生活の様々な場面において数量の関係に着目し、図や式などを用いて基準量、比較量、割合の関係を読み取ったり、表したりすることができるようにする指導が大切である。

○「変化と関係」に関する指導の充実

- ・単位量当たりの大きさについて考察する問題では、二つの数量の関係に着目し、異種の二量の割合としてとらえることが大切である。混み具合を比べる場合では、どちらか一方の量をそろえることや図や数直線などを用いて解決し、式の意味や単位量当たりの大きさから混み具合などを判断できるようにする指導が大切である。

○「データの活用」に関する指導の充実

- ・日常生活における問題を解決する場面では、表やグラフを読み取り、問題解決のために必要なデータを収集し、それを用いて解決していくことが大切である。そのために、データを正しく表やグラフに表したり読み取ったりして、得られた結論について考察できるようにする指導が大切である。

○「図形」に関する指導の充実

- ・図形を構成する要素に着目して立体図形について考察する問題では、図形の観察や構成などの具体的な操作活動を通して構成要素（頂点、辺、面）に着目し、図形の計量や構成の仕方について、筋道を立てて考察する指導が大切である。立体の体積についての理解は、単位や測定の意味を根拠に、具体物を用いて直方体や立方体の体積を比較する活動などを通して、単位の大きさを決めるとそのいくつ分として数値化できることを理解できるようにする指導が大切である。

○「測定」に関する指導の充実

- ・表やグラフを読み取る際に必要になる時刻や時間を求めるといった問題では、示された情報を解釈し、数量の関係に着目して、問題を解決していく日頃からの指導が大切である。

■ 中学校国語

【全国の平均正答率より 3 ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
3 一 — —3.0P	文章作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる	2 ウエ 言葉の特徴や使い方に関する事項	R7 1 一
3 三 — —3.9P	文章の展開の意図を説明したものとして適切なものを選択する	段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかをみる	2 イ B 書くこと	
4 二 — —3.8P	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	1 ウ 言葉の特徴や使い方に関する事項	

【正答率が 4 0 %に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
3 一 36.8% (国 39.8%)	文章作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる	2 ウエ 言葉の特徴や使い方に関する事項	R7 1 一
4 二 31.4% (国 35.2%)	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	1 ウ 言葉の特徴や使い方に関する事項	
4 四 38.0% (国 38.9%)	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするかどうかをみる	1 オ C 読むこと	R5 小学校 2 四

【本市の傾向・課題】

- 本市の平均正答率は、全国平均とほぼ同水準を維持している。各領域では「話すこと・聞くこと」、「書くこと」「読むこと」は、全国平均とほぼ同水準を維持し、記述問題においては、全国平均を上回る設問も見られるなど、おおむね同等の水準を維持していた。
「知識及び技能」の言葉の特徴や使い方に関する事項は、全国をやや下回っていた。
- 「食べられる」の助動詞「られる」が可能の意味を表していることを選ぶ設問（1の一）や「起きれる」が「起きられる」の「ら抜き言葉」であることを選ぶ設問（1の三）は、全国平均同様、80%台の高い正答率であった。しかし「投げられる」が、動詞「投げる」と助動詞「られる」からできていることを選ぶ設問（1の二）は、全国平均をやや下回っていた。
- 美しい歌声を響かせるために、どのように伝えたらよいかを、2つの条件に合わせて自分の考えを記述する設問（2の四）は、正答率が50%台で、無解答率は10%台と課題が見られた。
- 私の気持ちがより伝わるような表現の効果を考えて言葉を記述する設問（3の二）は、90%台の高い正答率であった。また交流場面の文を読んで、「よい点や改善点」と「生かしたいこと」を、メモを参考に記述する設問（3の四）は、正答率が全国を上回っていた。多数決を「とる」を漢字で書いたり、ボールを「とる」、山並みを「とる」の漢字を選んだりする設問（3の一）は、正答率が30%台で、全国平均を下回った。
- 「ほうふつとさせる」と同じような表現を抜き出す設問（4の二）や擬態語「きっぱり」を使った文と使わなかった文を比べ、どのような効果あるかを条件に合わせて記述する設問（4の四）は、いずれも正答率が30%台で、無解答率も20%台と課題が見られた。

【改善のための方策】

○日常の言語活動の中にある漢字や言葉の特徴やきまりに気付かせる指導の充実

- ・日常の言語活動の中にある、いわゆる「ら抜き言葉」を取り上げて、言葉の特徴やきまりについて考える設問では、単語の種類や活用、助動詞の働きについて学習したことを基に、その特徴やきまりなどに気付くことが求められている。そのため、「傘が折れる」「朝、起きれる」などの文を板書し、文を細かく区切って、文節や単語の役割を考えさせたり、これだけで意味が通じるかなどに気付かせたりすることが大切である。また「られる」「らしい」「ようだ」「そうだ」のような助動詞は、意味を付け加え叙述を助けたり、判断を示したりする品詞であり、助動詞を使うことによって、微妙なニュアンスを、相手によりよく伝えることができることも気付かせることが重要である。
- ・文章作成ソフトを用いて随筆を書く設問では、文脈に即した正しい漢字を書いたり、選択したりすることが求められている。そのため、同音異義語や同訓異字の意味の違いを理解させ、話や文章の中で使うことを通して、語彙を豊かにすることが大切である。また「ボールを捕る」「写真を撮る」「きのこを採る」のように、目的語とセットで板書したり、ノートに書かせたりすることも大切である。
- ・「ほうふつ（彷彿）」について、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して、同じような表現を段落中から抜き出す設問では、「ありありと」のような事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意しながら、話や文章の中で使う学習を通して、語感を磨き語彙を豊かにする指導が求められる。

○合意形成を前提とした調整力や多角的な思考を育む「話し合いの進め方」の指導の充実

- ・合唱コンクールの委員が、タブレット端末上で情報を共有しながら、学級の課題解決に向けて少人数で話し合う設問では、話し合いの展開に応じて情報を整理しながら、目的や場面に応じて集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討したり、話の内容を捉えるために質問したりして、互いの立場や考えを尊重しながら考えをまとめることを求めている。そのため、話し合い活動において、多数決でどちらか一方の案にするような二者択一の進め方ではなく、互いの意見のよさを組み合わせたり、柔軟に形を変えたりして、新たな代案を創出する指導が大切である。このような合意形成を前提とした、調整力や多角的な思考力を育む「話し合いの進め方」の指導を充実させ、他者と協働しながら課題を解決する「対話的な学び」を推進することが重要である。

○端末を活用した協働的な作文指導や語彙力を揺さぶる心情描写の工夫

- ・文書作成ソフトを使って、経験したことを基に随筆を書く設問では、表現の効果を考えて描写したり、段落相互の関係を明確にしたりする上で、読み手からの助言を踏まえ、書いた文書のよい点や改善点を見出すことを求めている。従来の紙面による作文指導に加え、1人1台端末を活用して生徒同士で作文を共有し、相互評価を元に全体の構成や表現の意図を考えながら、端末上で何度も推敲したり、心情を表す言葉をあえて身体への反応や行動、風景等で書き換えたりするような工夫が求められる（例：「悔しかった」を「唇を強く噛みしめた」と表現する等）。このように生徒の語彙力を揺さぶり、表現を洗練させる指導の充実が大切である。

○根拠を明確にした短文記述と相互評価を活用した読解力の育成など、領域を横断した言語活動の充実

- ・擬音語・擬態語について書かれた説明的な文章を読み、理解したことをノートにまとめる設問では、小問を通して、説明的な文章を読み、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えながら、文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えたり、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈したりした上で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることを求めている。そのため、文の構造を整理しながら目的をもって文章を読み、要約したり、段落分けをしたりする取組が大切である。また根拠となる叙述を明確にして、自分の意見を短文で書くなど、「読むこと」と「書くこと」の領域を横断した言語活動の充実が大切である。その際、生徒一人一人の記述内容を把握し、正しい読解に基づく、適切な記述がなされているかを、教師からの評価だけでなく、生徒同士の相互評価など多面的なフィードバックの機会を確保することも大切である。

■ 中学校数学

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
9 (1) +6.5P	全校生徒の睡眠時間の度数分布表において、最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	1年 データの活用	R5 5

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
5 -6.5P	大小二つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が6で小さいさいころの目が1である確率を求める	起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる	2年 データの活用	H20 A15(2) H21 A13(2) H23 A13(1) H24 A14(2) H25 A15(2) H26 A14(2) H28 A13(2) H29 A15(2) H30 A15(2) H31 5 R6 5
6 (3) -3.0P	手順にしたがってできたAとBについて、 $A-B$ の値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明する	統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2年 数と式	
7 (2) -4.3P	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	1年 関数	H25 B3(2) H29 B3(2) R3 7(2) R4 8(2) R7 8(2)
8 (1) -3.7P	$\angle AOB$ の大きさが a° のとき、 $\angle POB$ の大きさを a を用いた式で書く	具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる	1年 図形	
9 (2) -3.0P	学年別の睡眠時間について、学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ	箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる	2年 データの活用	

【正答率が 4 0 %に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
7 (2) 29.6% (国 33.9%)	データ量が 1 0 0 0 MB になるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかをみる	1 年 関数	H25 B3(2) H29 B3(2) R3 7(2) R4 8(2) R7 8(2)
8 (3) 35.9% (国 37.1%)	図 2 において、証明する事柄における仮定となる辺や角の関係を選ぶ	具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかをみる	2 年 図形	
9 (3) 31.8% (国 31.9%)	「就寝時間が 2 3 時より前の生徒と比べて、2 3 時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかをみる	1 年 データの活用	H29 B5(3) R3 8(3)

【本市の傾向・課題】

- 全体および各領域の正答率は、全国・県とほぼ同等であった。
- 「数と式」では、手順にしたがってできた 2 つの数について、それらの差がどんな数になるかを説明する設問「6 (3)」で正答率が低かった。昨年度に引き続き、統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- 「図形」では、具体的な事象を基に、証明する事柄における仮定となる辺や角の関係を選ぶ設問「8 (3)」で正答率が低く、証明に対する苦手意識が表れていた。
- 「関数」では、動画のデータ量から、およそ動画の時間を求める方法を説明する設問「7 (2)」で正答率が低く、無解答率が全ての設問の中で最も高かった。問題解決の方法を数学的に説明することに大きな課題が見られた。
- 「データの活用」では、累積度数を求める設問「9 (1)」の正答率は全国・県を上回った一方、確率を求める設問「5」や箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ設問「9 (2)」の正答率は全国・県を下回った。また、度数分布多角形の特徴を基に判断の理由を説明する設問「9 (3)」は全国と同程度だったものの、正答率は低かった。

【改善のための方策】

○統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明する学習指導の充実

- ・数に関する事象を考察する設問では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明することが大切である。与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを、具体的な数で計算する活動を通して、結論が成り立つための前提を捉え、見出した事柄を数学的に表現する活動を取り入れることが考えられる。
- ・文字を用いて説明する際には、何を文字で表すのか、最終的にどのような形の式で表すべきかを明確にしたうえで説明するように指導することが大切である。

○ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明したり、条件を変えた場合について証明を評価・改善したりする学習指導の充実

- ・仮定や仮定から分かる事柄、結論を導くために必要な事柄を明らかにし、それらを数学的に表現した上で方針を立て、その方針を基に推論の過程を数学的に表現できるようにすることが大切である。
- ・異なる2つの作図や証明を比較する活動を通して、それらの共通点を見出そうとしたり、さらに条件を変えた場合について考えようとしたりするなど、統合的・発展的に考察する態度を養うことが大切である。

○問題解決の方法を数学的に説明する学習指導の充実

- ・与えられた方法で問題を解決するだけでなく、問題解決の見通しを立てる際に、自分の考えた解決の方法を表現したり、問題を解決した後に問題解決の過程を振り返り、その方法をよりの確にまとめたりする活動を取り入れることが考えられる。その際、グラフや式などの「用いるもの」と「その使い方」を明確にして説明をさせることが大切である。

○資料の傾向を読み取って、数学的な表現を用いながら考察し判断する学習指導の充実

- ・日常生活や社会の事象を考察する設問では、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、多角的に考察し判断することができるよう指導することが大切である。具体的には、複数の集団のデータの分布に着目し、代表値や箱ひげ図、度数分布多角形などを用いてその傾向を読み取る活動を通して、理解を深めることができるように指導することが大切である。

■ 中学校英語

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域/評価の観点	過去問題
2 +3.1P	ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	聞くこと 思考・判断・表現	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域/評価の観点	過去問題
3 -6.8P	学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	聞くこと 思考・判断・表現	R5 [3]
4 -3.3P	職場体験についての発表を聞き、その後に表示される3枚の絵を体験した順になるように選択する	日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる	聞くこと 思考・判断・表現	
8 -4.4P	友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	読むこと 思考・判断・表現	R5 [6]
10(1) -4.8P	インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	読むこと 思考・判断・表現	H31 [7](1)
11(2) -4.0P	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	書くこと 知識・技能	

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域/評価の観点	過去問題
10(2) 28.8% (国 27.8%)	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	書くこと 思考・判断・表現	R5 [8](2)

14 29.1% (国 27.8%)	学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	書くこと 思考・判断・表現	R5 10
--------------------------	-------------------------------	---	------------------	-------

【本市の傾向・課題】

- 本市の平均正答数・平均 IRT スコアは、全国平均とほぼ同程度である。
- 「聞くこと」においては、日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ること「2」は概ねできている。しかし、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ること「3」や、話を聞き、概要を捉えること「4」には課題がある。
- 「読むこと」においては、日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ること「7」は概ねできている。しかし、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること「8」や、社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えること「10（1）」には課題がある。
- 「書くこと」における、社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと「10（2）」や、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題「12」「13」「14」では、いずれも全国平均を上回っている。しかし、平均正答率が30%を下回っており、また無解答率も高く、課題でもある。また、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用する技能に課題がある。

【改善のための方策】

○自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を捉える「聞くこと」の指導について

- ・自分の置かれた状況を理解し、英語の音声を聞く中で、聞く目的を把握していくことが求められるので、生徒自身が何を聞き取らなくてはならないのかを整理できるようにすることが大切である。
- ・そのために、一度音声を聞かせた後に、聞く目的とどういった情報を聞き取らなければならないのかを確認させ、関連する語句や表現に着目して、再度、英語の音声を聞かせ、自分にとって必要な情報とそうでない情報を判断し、必要な情報にしばって聞き取ることができるように指導することが考えられる。

○話の概要を捉える「聞くこと」の指導について

- ・話を聞いて概要を捉えるためには、課題を把握した上で、特定の部分にのみとらわれることなく、話の最初から最後まで通して聞かせることが重要である。
- ・その際、文章の構成を意識し、メモをしながら聞かせたり、時間的な場面（いつ）や空間的な場面（どこで）の移り変わりを表す表現や出来事に関連した表現に着目させたりするなど、文章や構成の概要を捉えるための手がかりとなる語句や表現に着目して聞くように指導する。それを基に、聞き取った情報や場面の移り変わりを整理させる。その後、ペアやグループで場面の移り変わりなどをどのように整理したのか伝え合ったり、学級全体で確認したりすることが考えられる。

○自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を捉える「読むこと」の指導について

- ・文章を読む中で、問題文から得られる情報を理解したり、読む目的やどのような情報を読み取るべきかを明確にしたりすることが求められる。自分の置かれた状況などから、自分にとって必要な情報とそうでない情報を整理させ、必要な情報を読み取ることができる指導をすることが大切である。

○社会的な話題について、短い文章の要点を捉える「読むこと」の指導について

- ・社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えさせるためには、特定の部分にのみとらわれることなく、文章全体を通して読み、文と文の関係を捉え、段落内の情報と情報との関係、段落と段落との関係など、文章の構成を理解することが大切である。また、意見文においては、文章の構成の1つとして、文章が「書き手が最も伝えたいこと（主張）」と、それを支える理由（例示・経験・比較など）で構成されていることを指導することが大切である。
- ・文章を読んだ後で、書き手が最も伝えたいことは何か、なぜそう考えたのかをペアやグループで話し合う活動などが考えられる。ペアやグループで話し合ったことを学級全体で共有する際に、事実と考えに分けて文章の構成を確認させたり、考えを伝える表現や理由を伝える表現などに着目させたりすることで、他の文章を読んでも要点を捉えることができるようにする。

○音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して「書くこと」の指導について

- ・正確に書くことができるようにするためには、場面や状況から活用すべき文法事項などを判断し、既習の文法事項などを適切に使い分けて表現することが大切である。また、新しい文法事項を扱ったり、言語活動を行ったりする際には、関連のある文法事項をまとめて整理し、違いを理解することが大切である。
- ・例えば、既習の文法事項と新しく学んだ文法事項を比較し、共通点や相違点を考える活動や、ある特定の場面を設定し、適切な表現を選択して書く活動などが考えられる。

○社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を「書くこと」の指導について

- ・文章を読んで、要点を確認した後、自分の考えをキーワードとしてメモなどに整理させたり、書き手の意見に対して感じたことや考えたことをペアでやりとりさせ、話題に関する理解を深めてからメモを整理させたりして、読み手に伝わるように自分の考えや感想などを書けるようにすることが大切である。
- ・読んだことを基に、その内容に関する自分の意見や感想などを書く際には、読み取った内容に関する賛否や自分の意見を述べたり、自分の意見や主張とその理由や根拠の関係を明確にしたり、内容を整理して述べたりすることなど、論点を明らかにしたり順序付けを行ったりすることにより、読み手にとって読みやすくわかりやすい文章を書くことが大切である。
- ・書いたものについて生徒同士でコメントする活動を取り入れたり、教師からのフィードバックを与えたりすることで、表現を推敲させることも大切である。教師がフィードバックする際は、どのような課題があるのかを把握し、多くの生徒が共通した誤りがある場合には、学級全体で確認することが大切である。

○日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を「書くこと」の指導について

- ・「まとまりのある文章を書く」とは、文と文の順序や相互の関係に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことである。そのためには、「導入ー本論ー結論」や「主張ー根拠や具体ー主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら書くことが重要である。
- ・まとまりのある文章を読む活動を充実させることや、書く前にテーマについてメモを基にペアでやりとりを繰り返し、友達の考えや表現を参考に自分の考えを書かせるなど他の領域と統合した指導を行うことが考えられる。また、「まとまりのある内容」の文章を書くために、接続詞や代名詞を用いて、文と文のつながりを意識させ3文程度の短い文章を書くことを繰り返し行うことが考えられる。「書くこと」を繰り返す中で、読み手に伝わる表現で書くことができるように指導することが大切である。

（3）無解答率について

＜無解答率が全国よりも高い設問の数＞

※全国よりも無解答率が高い設問の数／全設問数

全国より無解答率が高かった設問数					
小学校	R 7年度	国語	算数		
		1問／14問中	0問／16問中		
	R 8年度	国語	算数		
		5問／13問中	1問／16問中		
中学校	R 7年度	国語	数学	R 5年度	英語
		6問／14問中	11問／15問中		2問／17問中
	R 8年度	国語	数学	英語	
		3問／15問中	8問／16問中	3問／16問中	

【本市の傾向と課題】

○昨年度との比較の視点から

- ・全体的な傾向として、昨年度との比較から、小学校での無解答率は増加し、中学校での無解答率は減少した。
- ・中学校数学の無解答率が全教科の中でも最も多かった。全国平均を上回った設問数は50%になるが、昨年度より大きく減少した。
- ・英語は、3年前との比較になるが、中学校では、無解答率が全国平均を上回った設問数は3年前に比べて微増した。

○全国との比較の視点から

- ・小学校は、国語、算数合わせて無解答率が全国平均を上回った設問は6問あったが、そのうち5問は全国と1.0ポイント未満での差であった。
- ・中学校は、国語、数学、英語合せて無解答率が全国平均を上回った設問は14問あり、そのうち8問で全国と1.0ポイント未満での差であった。国語は最大で3.6ポイント、数学は最大で4.1ポイント、無解答率が全国平均を上回っている。

○無解答率そのものの視点から

- ・小学校では、国語において無解答率が全国平均を上回り、かつ無解答率が10%を超えている設問は記述式の1問であった。「文章を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く」問題であった。
- ・中学校では、無解答率が10%を超えている設問は、国語においては4問、数学においては5問、英語においては2問であった。国語においては、3問ある記述式の問題のすべてが該当し、「話し合いを受けて自分の考えを書く」問題、「文章のよい点や改善点などを書く」問題、「二つの例文を比較し、擬態語の効果について書く」問題であった。数学においては、4問ある記述式の問題のすべてが該当し、「選んだ2数の差に着目して説明する」問題、「データ量をもとにした動画の時間を求める方法を説明する」問題、「三角形の合同を基にして証明する」問題、「二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する」問題であった。英語においては、「短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く」問題、「事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く」問題であった。

【改善のための方策】

- ・自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書いたり、説明したり、発表したりすること、また友達と意見を交流し、自分の考えを深めていくような活動を意図的に設定し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を行っていくことが大切である。
- ・基礎的な知識や理解を問う問題に対応するために、辞書を引く習慣をつけ、漢字や英単語などを繰り返し書いて覚える取り組みを設定していくことが大切である。

3 質問調査の本市の結果について

(1) 児童生徒質問調査の特徴

①小学校【児童質問調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	4.9
4	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く） ※1時間以上	▲3.2
6	学校の勉強のことに、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか ※週1～2回以上	5.9
7	学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか ※週1～2回以上	8.3
13	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	3.2
16	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	4.5
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	5.7
36-1	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか	5.7
36-2	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか	3.8
36-3	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	5.9
36-4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	8.9
38	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	7.0
45	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	4.1
47	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	5.5
48	総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか	6.4
49	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	4.1
50	学級会における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	5.6
51	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	3.1
53	国語の勉強は好きですか	4.6
56	5年生までに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか	4.5
57	5年生までに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか	8.1

58	5年生までにうけた授業では、国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていたか	3.2
66	5年生までに受けた授業では、算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていたか	3.1
70	英語の勉強は好きですか	5.7
国1	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか ※最後まで解答を書こうと努力した	5.4
算1	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか ※最後まで解答を書こうと努力した	3.9

▲ポイントは高いが、マイナス要素の質問項目

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
23	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ※2時間以上	-5.5
国2	解答時間は十分でしたか（国語）	-8.0

②中学校【生徒質問調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
4	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く） ※2時間以上	▲4.2
38	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	5.4
49	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	3.3
50	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	5.8

▲ポイントは高いが、マイナス要素の質問項目

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
52	国語の勉強は得意ですか	-6.7
53	国語の勉強は好きですか	-8.5
54	国語の授業の内容はよく分かりますか	-7.7
60	数学の勉強は得意ですか	-7.0
61	数学の勉強は好きですか	-5.4
62	数学の授業の内容はよく分かりますか	-5.8
63	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	-6.9

64	1、2年生のときに受けた授業では、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか	－5.5
65	1、2年生のときに受けた授業では、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか	－6.5
66	1、2年生のときに受けた授業では、数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか	－3.1
80	1、2年生のときに受けた授業では、キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書く活動をどれくらい行いましたか ※よく行う、どちらかといえば行う	－5.5

③児童生徒質問調査について

今年度、児童生徒質問調査の設問数は、小学校 73、中学校 80 であった（昨年度は、小学校 80、中学校 72。ランダム方式で実施した質問は集計から除外）。全国平均と比べて 3 ポイント以上上回る設問が、小学校では 26（昨年度 41）、中学校で 4（昨年度 17）あった。反対に 3 ポイント以上下回る設問が、小学校では 2（昨年度 2）、中学校で 11（昨年度 5）あった。小学校 9 割（昨年度 9 割以上）、中学校では 4 割以上（昨年度 7 割以上）の設問で、肯定的な回答が全国平均を上回っている。

<小学校>

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」について、全国平均を上回っており、規則正しい生活を送っていることがうかがえる。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答が 9 割前後となり、全国平均も 0.9～2.7 ポイント上回ったことから、自己有用感を感じている児童が多いことが分かる。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」についても、肯定的な回答をした児童が 9 割以上おり、幸福感を感じている児童が多いこともうかがえる。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」について、85%以上の児童が肯定的に回答している。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」については、肯定的な回答が全国平均を 3.2 ポイント上回り、「学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか（週 1～2 回以上）」については、全国平均を 8.3 ポイント上回っている。児童が安心して生活できるような環境が徐々に構築できつつある様子がうかがえる。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」について、全国平均を 4.5 ポイント、「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」について、2.4 ポイント上回ったことから、学びの過程において、多様な考えに触れたり、新たな考えを構築したりすることに関心をもっている様子がうかがえる。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」では、2 時間以上学習している割合が全国平均を 5.5 ポイント下回り、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」では、2 時間以上学習している割合は全国平均を 2.7 ポイント下回った。また、「普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）で SNS や動画視聴などをしますか

報告：第12号

か（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」については、1時間以上の割合が全国平均を3.2ポイント上回っている。このことから、家庭学習のあり方や時間の確保、スマートフォン等の利用にける学習への影響について、今後検討していく必要がある。

- PC・タブレットなどのICT機器の利活用に関する設問については、すべての項目で3.8～8.9ポイント全国平均を大きく上回った。このことから、甲府市内におけるICTを活用した授業が継続的に行われてきたことにより、十分に浸透してきていることがわかる。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」について、全国平均を大きく上回った。学級の課題について話し合われたことを、学級生活をよりよくするために意識して取り組もうとする姿勢がうかがわれる。
- 「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」について、全国平均を上回っていることから、先生方が日頃から甲府スタイルの授業を意識した授業実践を行い、それにより、児童の「個別最適な学び」と「協働的な学び」が深まりつつあることがうかがえる。
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」について、肯定的な回答をした児童が9割以上おり、全国平均を4.1ポイント上回っている。先生が児童の様子を把握し、適切な指導を粘り強く行っていることがうかがえる。
- 「国語の勉強は好きですか」など、国語の学習についての設問は全ての項目で肯定的な回答が全国平均を上回った。特に「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか」については、4.5ポイント、「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを伝えてくれますか」については、8.1ポイント全国平均を上回っている。
- 「算数の勉強は好きですか」についての回答が、全国平均を若干上回った。また、「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」という項目では全国平均を3.1ポイント上回っている。算数の学習において、先生方が「個別最適な学び」「協働的な学び」の力が児童に培われるよう、授業を行っている様子がうかがえる。
- 英語の学習についての設問は全ての項目で肯定的な回答が全国平均を上回った。特に「英語の勉強は好きですか」については、5.7ポイント全国平均を上回り、英語専科教員や担任とALTなどが連携し、充実した学習を進めていることがうかがえる。
- 「解答時間は十分でしたか」については、国語も算数も肯定的な回答が全国平均を下回った。特に国語では8.0ポイントと大きく下回った。問題文を時間内に的確に理解する「読解力」が課題であることがうかがえる。読書や新聞を読む時間、本の所有数に関する設問などから、活字に触れる機会、発達段階に応じた文章を読むという機会が減っていることと関連していることが考えられる。

報告：第12号

<中学校>

- 「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝て（起きて）いますか」について、肯定的な回答をした生徒は8割程度で、全国平均も上回っており、規則正しく健康的な生活しようとして心がけていることがうかがえる。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」については、肯定的な回答が8割を超え、全国平均を1.1ポイント上回った。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」についても、肯定的な回答が9割を超え、全国平均を1.8ポイント上回った。先生など他者に認められることにより、自己肯定感を高めている生徒が多いことが分かる。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」では、2時間以上で比較した場合全国平均を1.9ポイント下回り、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」では、2時間以上で比較した場合全国平均を0.2ポイント下回った。また、「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」については、2時間以上の割合が全国平均を4.2ポイント上回っている。このことから、小学校同様、家庭学習のあり方や時間の確保、スマートフォン等の利用における学習への影響について、今後検討していく必要がある。
- 「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」については、「週3回以上」で比較したとき、全国平均を上回り、市内においてICT機器がツールとして当たり前浸透してきていることが分かる。しかし、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか」では全国平均を下回った。市内においてICT機器の活用方法についての工夫が求められている。
- 「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」については、肯定的な回答が全国平均を5.4ポイント上回った。各教科の授業や総合的な学習の時間での探究的な学習活動の積み重ねが、論理的な表現力の育成につながっていると考えられる。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」について、全国平均を大きく上回った。小学校同様、学級の課題について話し合われたことを、学級生活をよりよくするために意識して取り組もうとする姿勢がうかがえる。
- 「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」「1、2年生のときに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」については、全国

報告：第12号

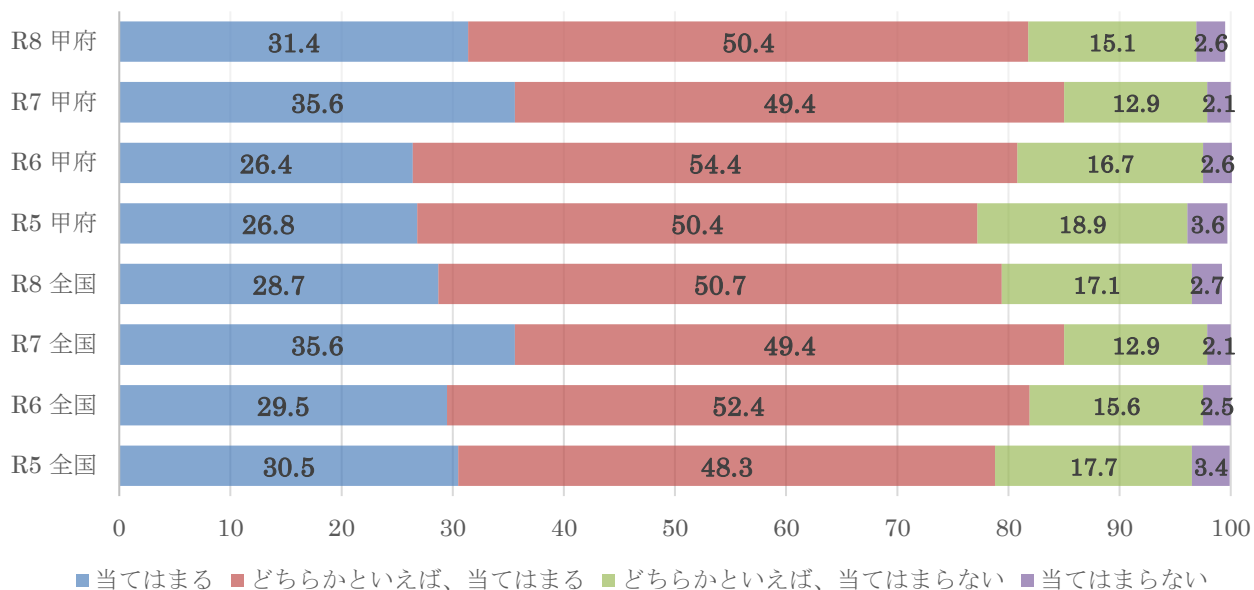
平均を下回っている。このことから、先生方が日頃から甲府スタイルの授業を意識した授業実践を行い、小学校と連携していく中で、生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」を深めていく手立てを講じていく必要があることがうかがえる。

- 国語の学習に関する設問では、多くの設問において肯定的な回答が全国平均を下回った。「国語の授業の内容はよく分かりますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「1、2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか」など、国語の学習の意義を十分に感じていない生徒が多いことがうかがえる。国語に興味・関心を持たせるような工夫が求められている。
- 数学の学習に関する設問については、全ての設問において肯定的な回答が全国平均を下回った。「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」については、肯定的な回答が全国平均を6.9ポイント、「1、2年生のときに受けた授業では、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか」については、全国平均を5.5ポイントと大きく下回り、国語と同様に、数学の学習の意義を十分に感じていない生徒が多いことがうかがえる。「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」についても、肯定的な回答が全国平均を下回っていることから、数学に苦手意識を持っており、粘り強く取り組むことを諦めてしまっている生徒が多いことが考えられる。「数学の授業の内容はよく分かりますか」についても、肯定的な回答が全国平均を5.8ポイント下回っており、数学に興味・関心を持たせるような工夫や、より丁寧な指導が求められている。
- 英語の学習については、全ての設問において肯定的な回答が全国平均をわずかに下回った。国語や数学と同様に、学習の意義を十分に感じていない生徒が多いことがうかがえる。「1、2年生のときに受けた授業では、キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書く活動をどれくらい行いましたか」についても、肯定的な回答が全国平均を5.5ポイント下回っていることから、英語に興味・関心を持たせるような工夫はもちろん、生徒のタイピング技術の向上に向けた取り組みが求められている。
- 「解答時間は十分でしたか」について、肯定的な回答が、国語は全国平均を下回り、数学は全国平均と同等であった。生徒の回答の傾向から、両教科ともに書く問題に課題があり、書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた。時間が足りないために、書く問題にじっくり取り組めなかったことがうかがえる。

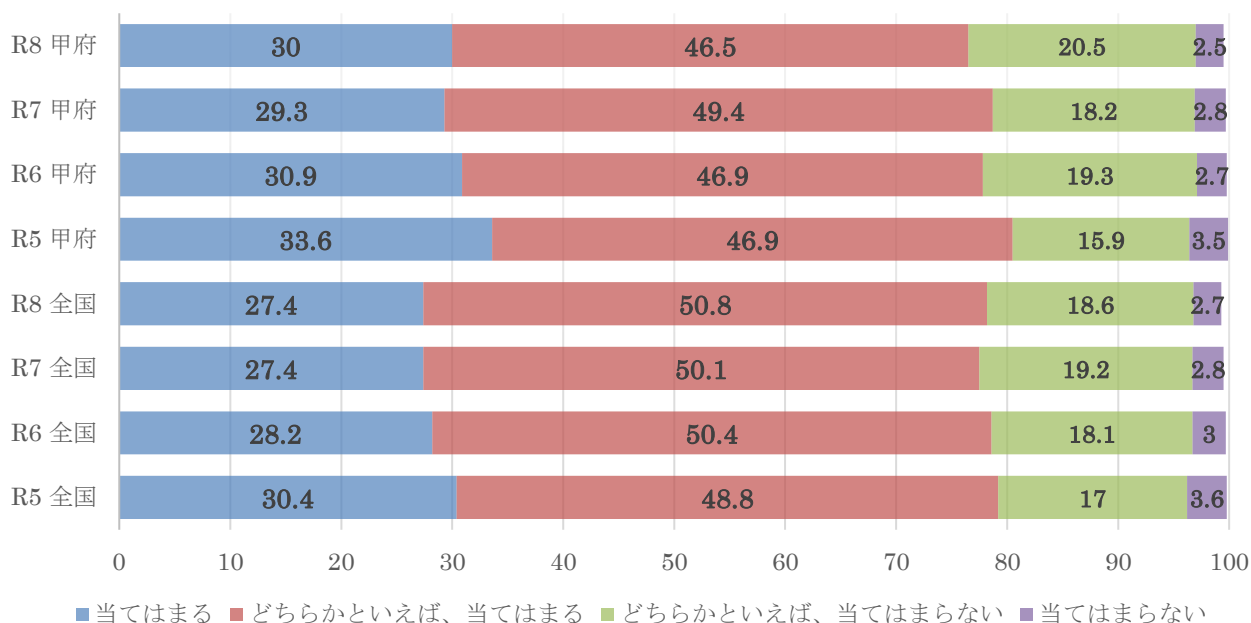
☆児童生徒質問調査のうち教育活動（「主体的・対話的で深い学び」）に関わる資料①

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

小学校

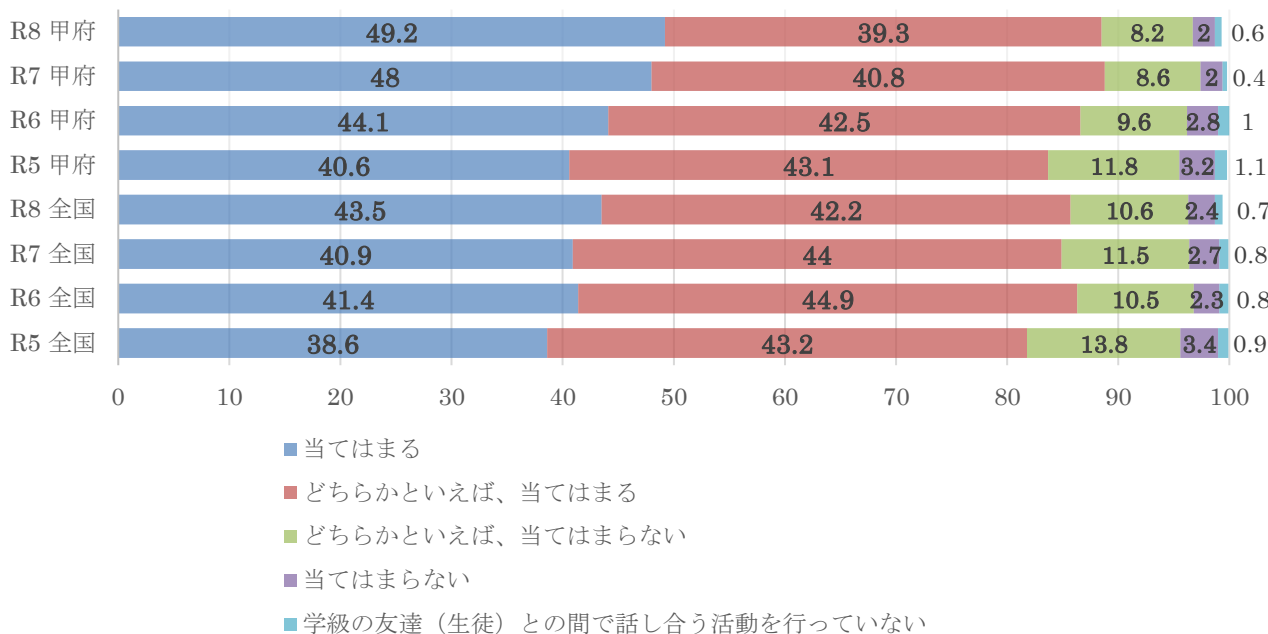


中学校

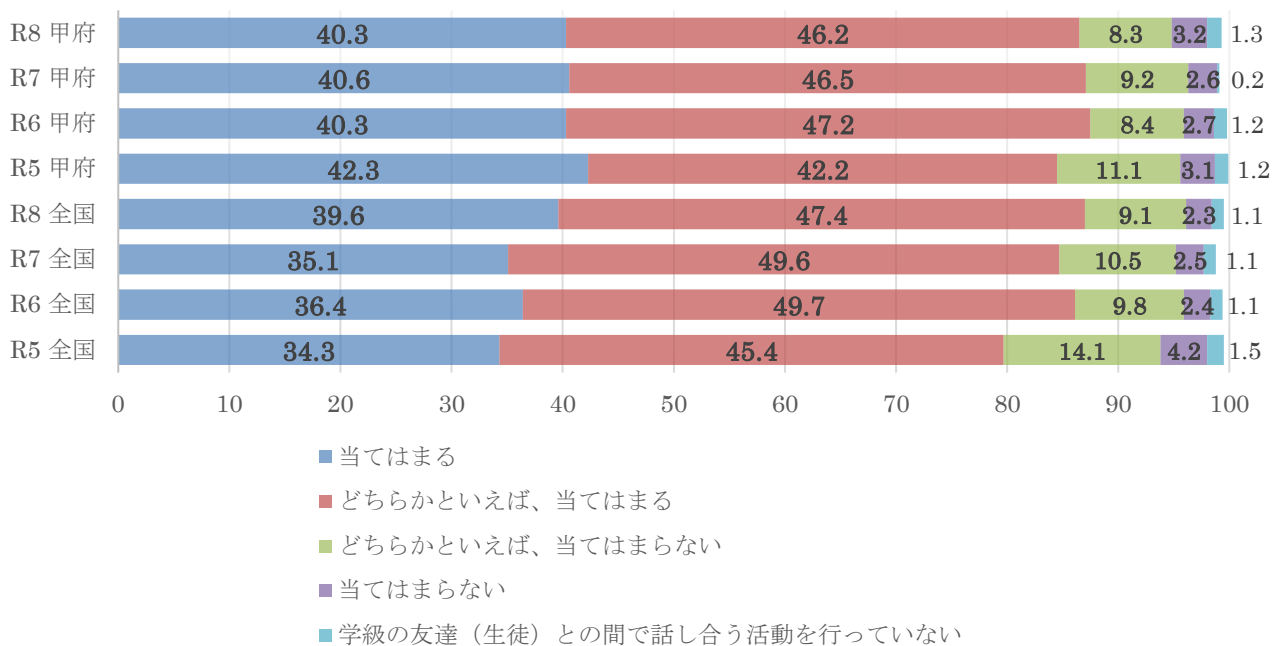


学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

小学校

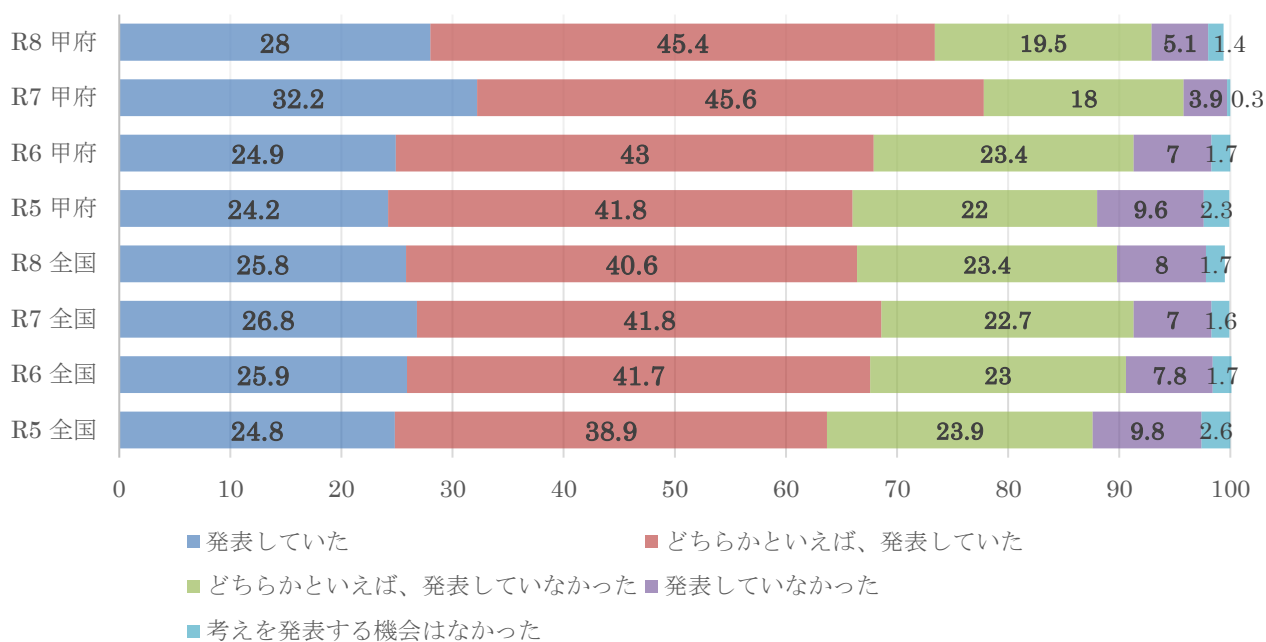


中学校

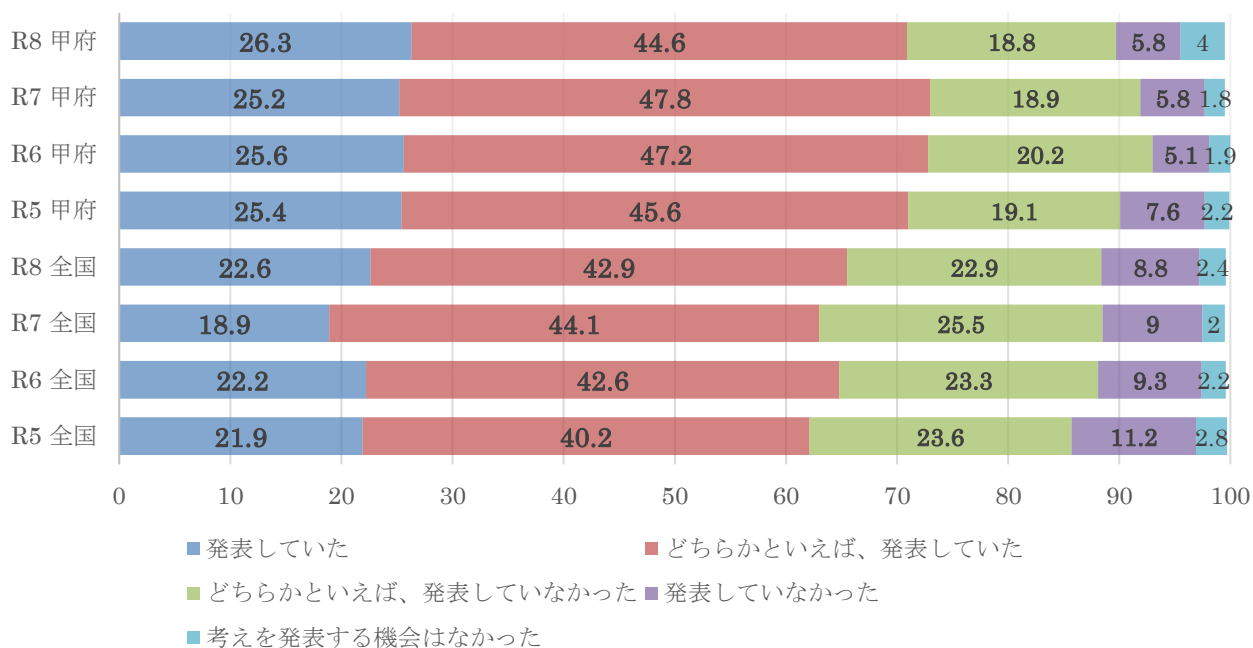


授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

小学校



中学校

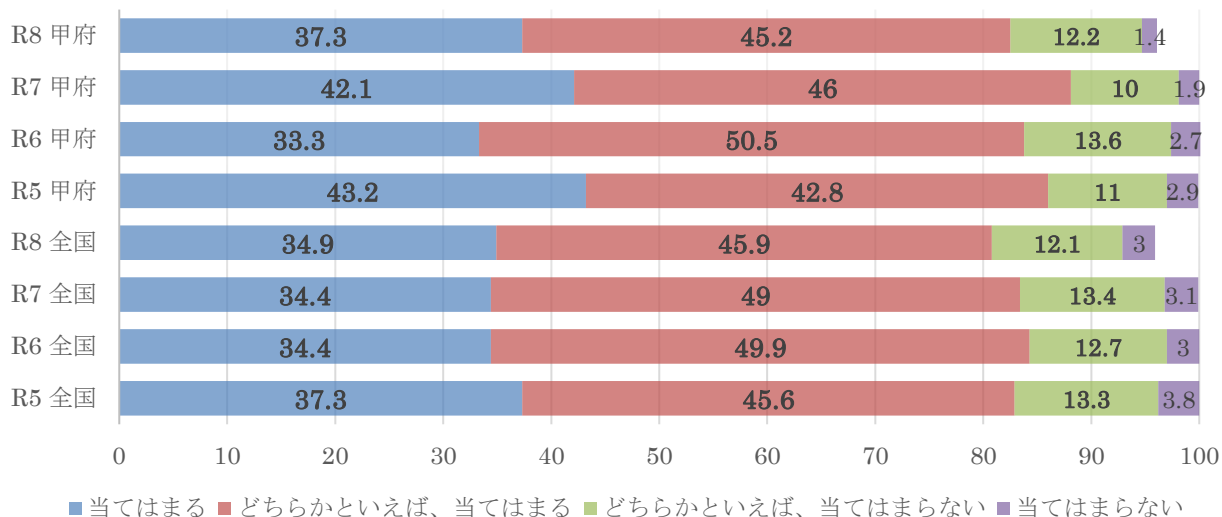


☆児童生徒質問調査のうち教育活動（個別最適な学び）に関わる資料②

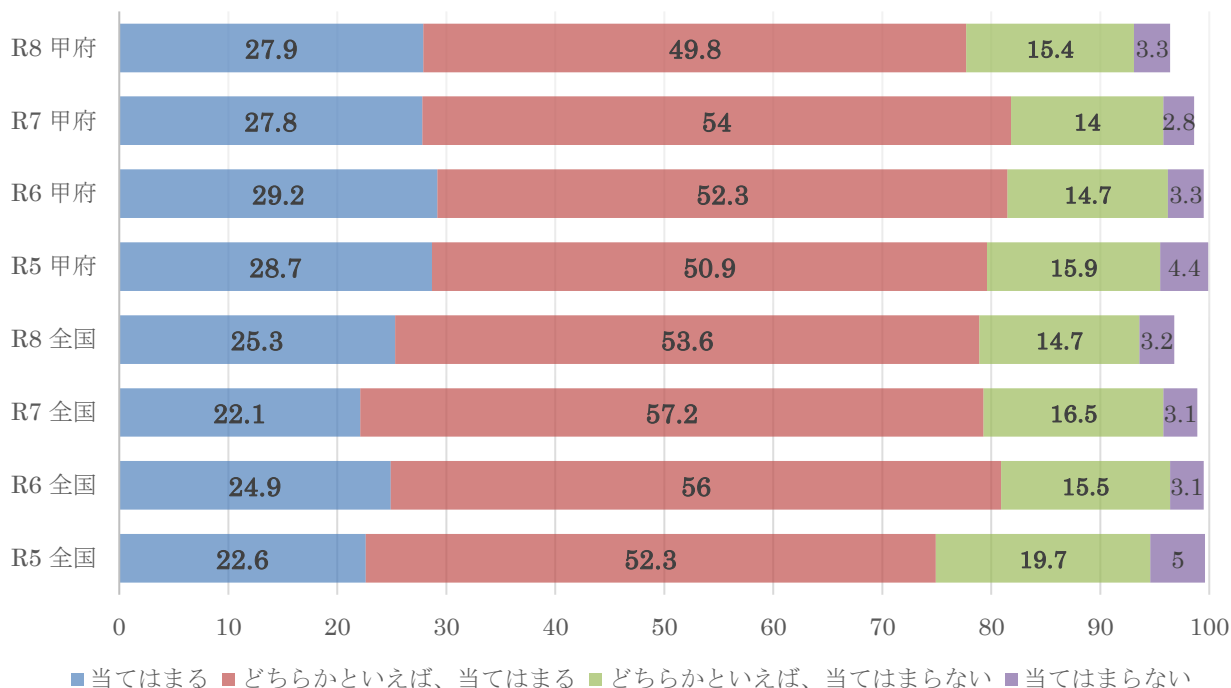
5年生まで【1、2年生のとき】に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

※【 】内は中学校の質問

小学校



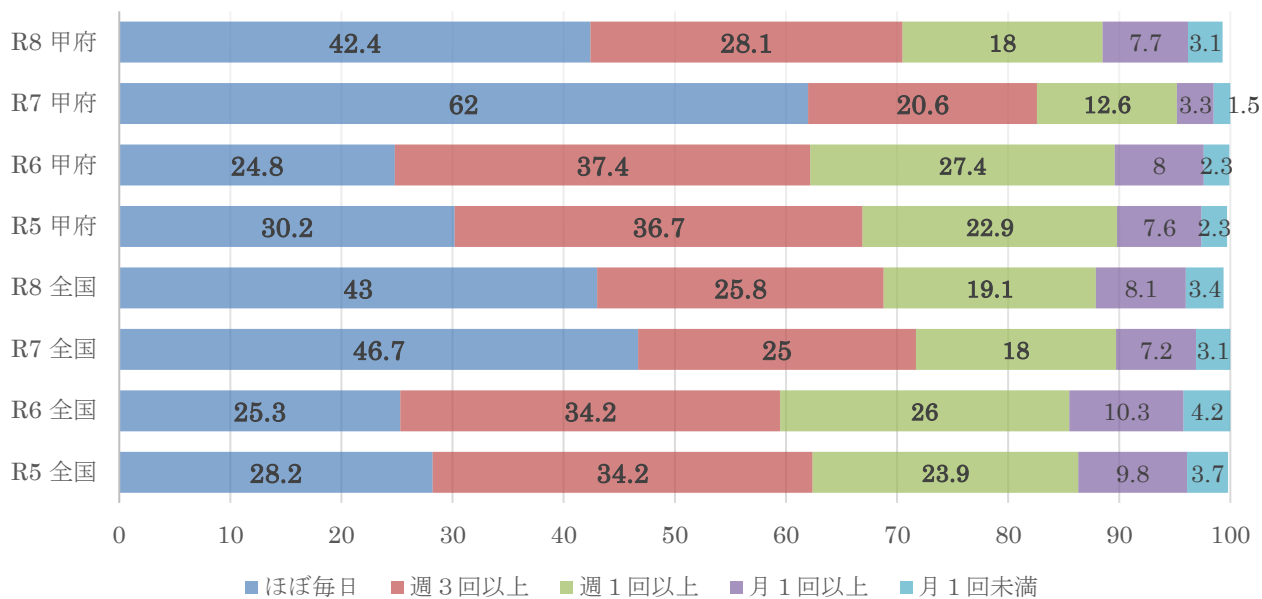
中学校



☆児童生徒質問調査のうち「I C T」に関わる資料

5年生まで【1、2年生のとき】に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、
どの程度使用しましたか ※【 】内は中学校の質問

小学校



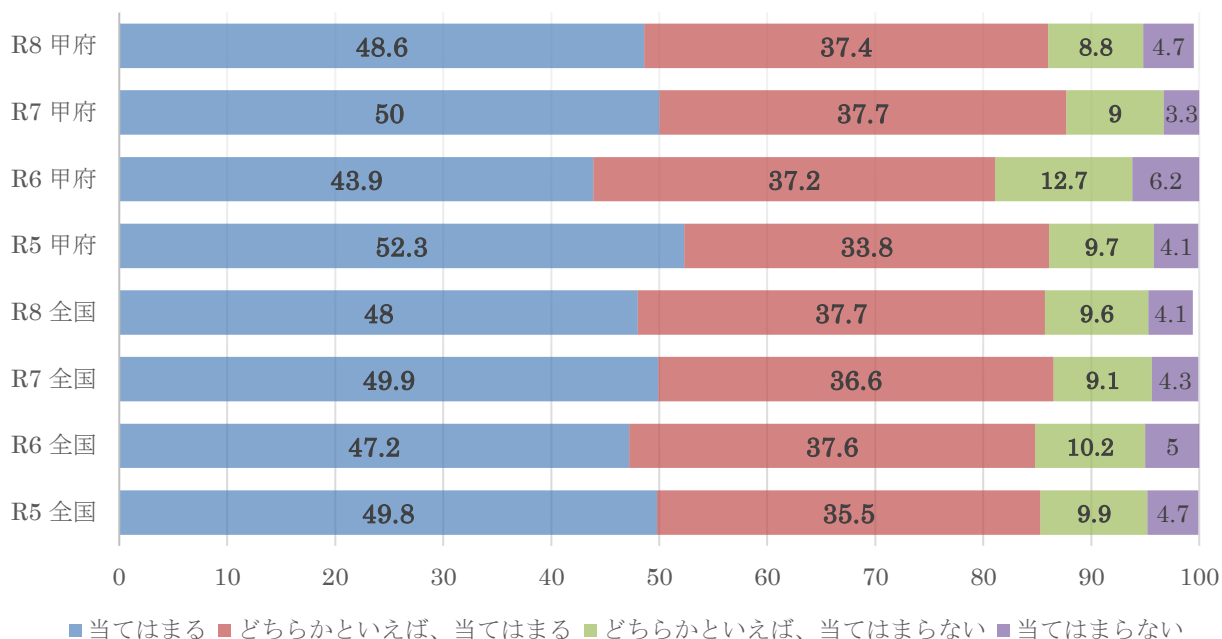
中学校



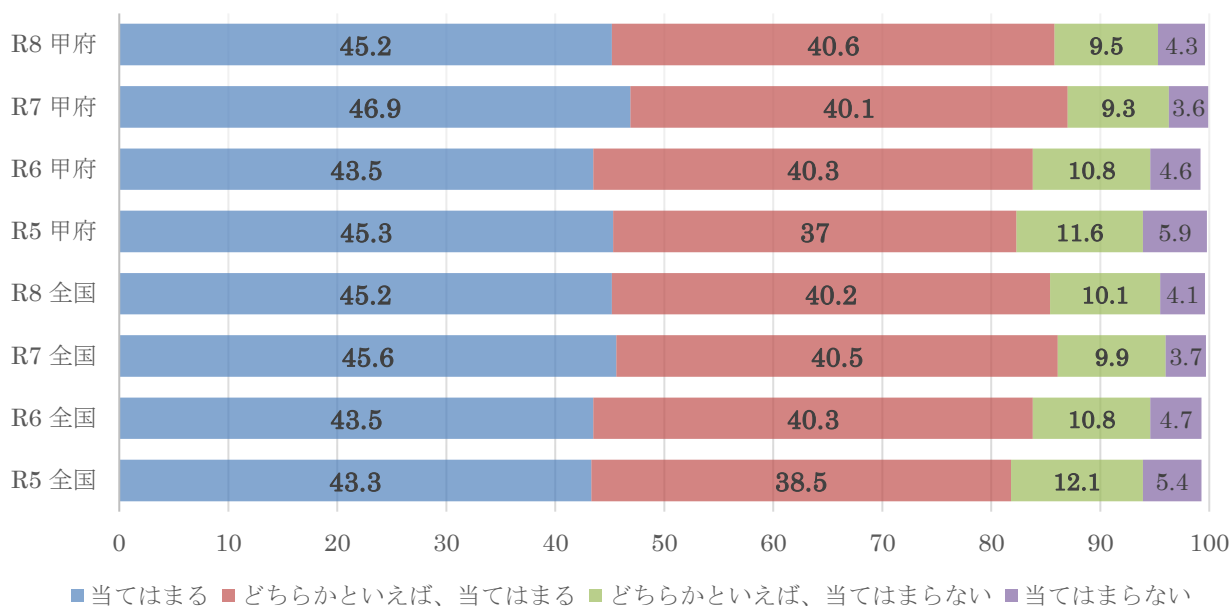
☆児童生徒質問調査のうち「その他」の資料

学校に行くのは楽しいと思いますか

小学校

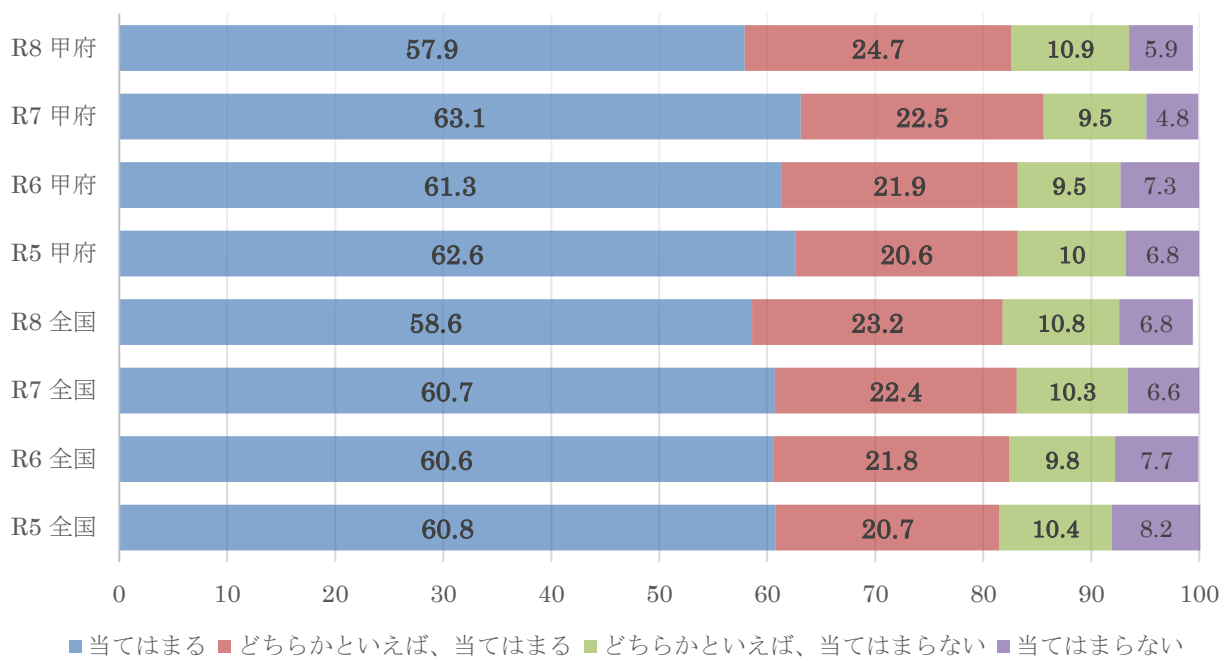


中学校

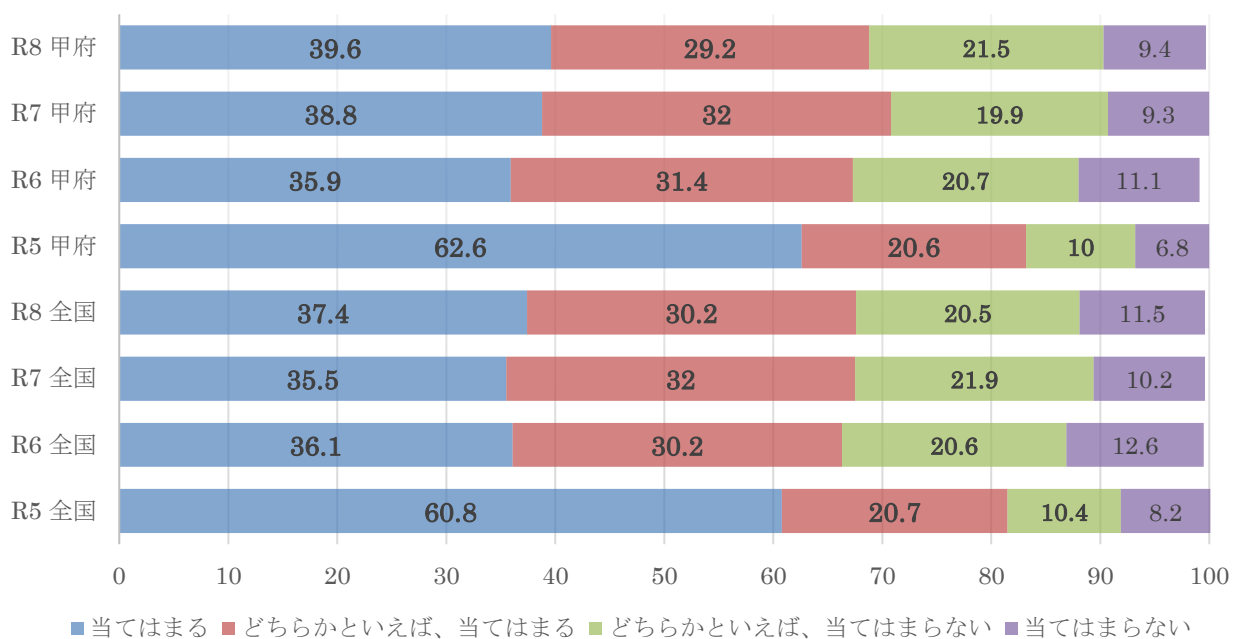


将来の夢や目標を持っていますか

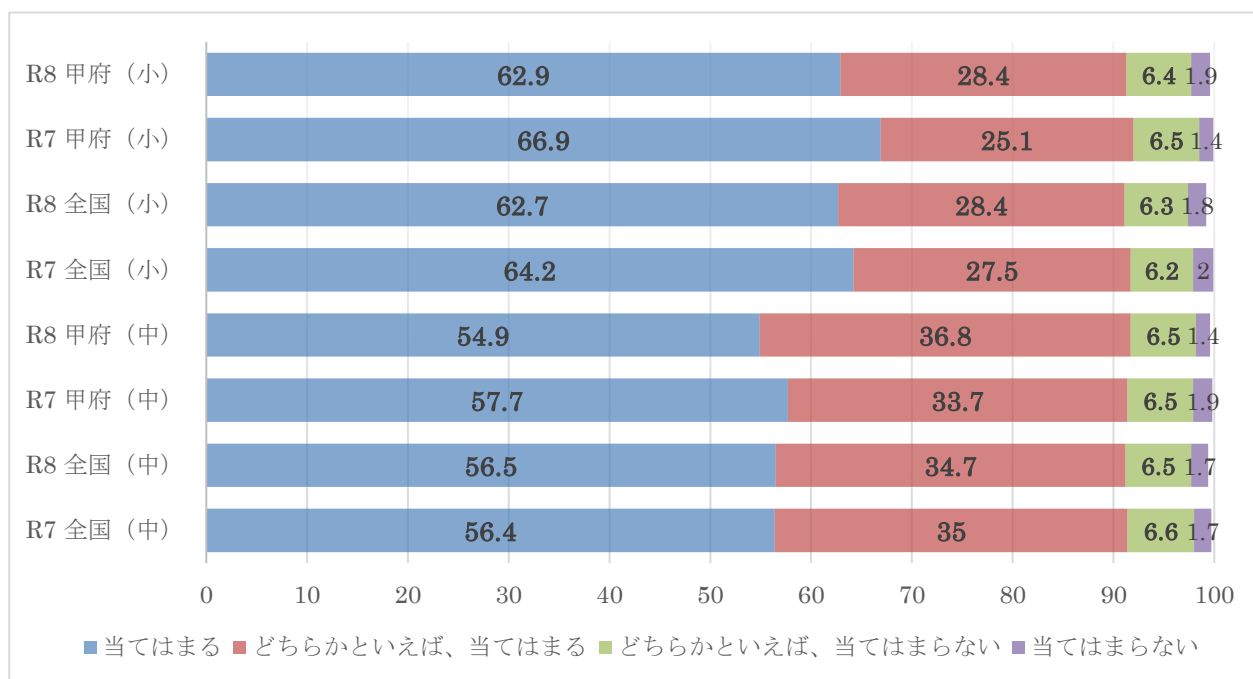
小学校



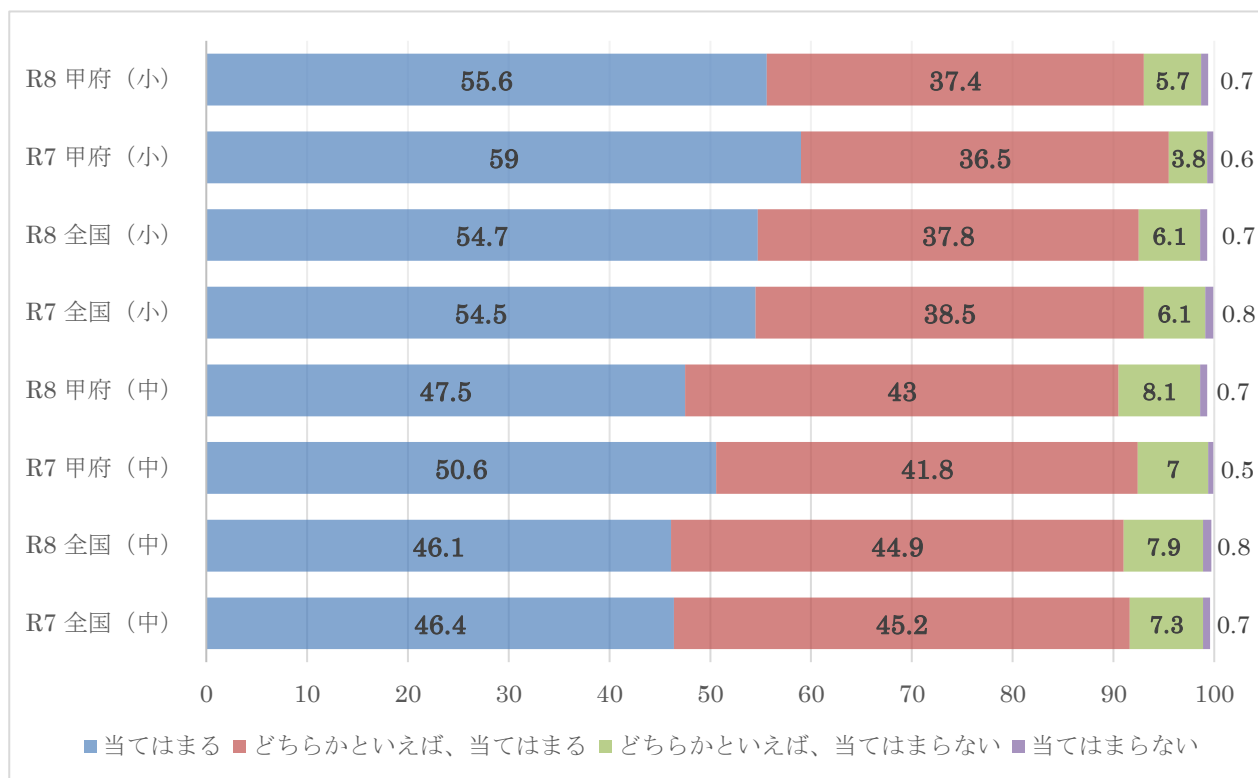
中学校



友達関係に満足していますか



普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



報告：第12号

(2) 学校質問調査の特徴

(全国平均：全国平均との比較)

○調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (98.8% : +1.2)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (98.3% : +1.7)

○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童（生徒）が相談したい時に相談できる体制となっていますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 96.0% (95.0% : +1.0)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (97.2% : +2.8)

○ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (99.6% : +0.4)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (99.3% : +0.7)

○児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (97.3% : +2.7)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (95.9% : +4.1)

○指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (97.8% : +2.2)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 91.7% (93.7% : -2.0)

○学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (99.3% : +0.7)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (99.1% : +0.9)

○教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (99.3% : +0.7)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (99.0% : +1.0)

○児童（生徒）にとって、学校施設全体として、児童（生徒）が学びや生活がしやすく、居心地のよい建物だと思いますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 96.0% (83.3% : +12.7)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (81.2% : +18.8)

○調査対象学年の児童（生徒）は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (93.2% : +6.8)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (94.9% : +5.1)

○調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 84.0% (88.1%:-4.1)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (86.1%:+13.9)

○調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか

〔小学校〕 「週1回程度」「月数回程度」 92.0% (87.7%:+4.3)

〔中学校〕 「週1回程度」「月数回程度」 83.3% (66.9%:+16.4)

○調査対象学年の児童（生徒）に対して、総合的な学習の時間において、児童（生徒）一人一人がICT機器を活用することにより、探究の過程の質が向上することを意識した指導をしていますか

〔小学校〕 「している」「どちらかといえば、している」 96.0% (95.6%:+0.4)

〔中学校〕 「している」「どちらかといえば、している」 100% (93.9%:+6.1)

○調査対象学年の児童（生徒）に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

〔小学校〕 「している」「どちらかといえば、している」 96.0% (93.7%:+2.3)

〔中学校〕 「している」「どちらかといえば、している」 100% (93.5%:+6.5)

○調査対象学年の児童（生徒）に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童（生徒）が意思決定できるような指導を行っていますか

〔小学校〕 「している」「どちらかといえば、している」 92.0% (92.7%:-0.7)

〔中学校〕 「している」「どちらかといえば、している」 100% (91.9%:+8.1)

○調査対象学年の児童（生徒）に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童（生徒）自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (96.4%:+3.6)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (96.8%:+3.2)

○調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組を行いましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 80.0% (89.3%:-9.3)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (92.7%:+7.3)

○調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、国語の授業で、児童（生徒）に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行いましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 96.0% (95.7%:+0.3)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (96.9%:+3.1)

○調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるような指導を行いましたか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (97.1%:+2.9)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 91.7% (93.4%:-1.7)

○調査対象学年の児童（生徒）に対する算数（数学）の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、根拠を明確にして児童（生徒）に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (95.8% : +4.2)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 91.6% (95.7% : -4.1)

○調査対象学年の児童（生徒）に対する理科の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (97.2% : +2.8)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 91.7% (97.9% : -6.2)

○調査対象学年の児童（生徒）に対する理科の授業において、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか

〔小学校〕 「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」 100% (98.5% : +1.5)

〔中学校〕 「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」 100% (97.5% : +2.5)

○児童（生徒）が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどの ICT 機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか

〔小学校〕 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」 100% (93.3% : +6.7)

〔中学校〕 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」 91.6% (89.4% : +2.2)

○ICT 機器やインターネットの利活用について、目的や場面に応じた適切な使い方や、利活用にあたってのルールやマナー（長時間利用防止や情報の取扱いも含む）に関する指導を行いましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (98.6% : +1.4)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (97.2% : +2.8)

○前年度までに、調査対象学年の児童（生徒）に対する授業の中で、発達障害を含む障害のある児童も含めた、多様な児童（生徒）が通常の学級に在籍していることを前提に、学級全体での指導の工夫を行いましたか

〔小学校〕 「十分行った」「一部行った」 100% (98.8% : +1.2)

〔中学校〕 「十分行った」「一部行った」 100% (97.9% : +2.1)

○前年度までに、調査対象学年の児童（生徒）に対する授業の中で、発達障害を含む障害のある児童（生徒）に対する個に応じた指導内容や指導方法の工夫として、当該児童（生徒）が学習活動を行う場合に生じる「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた様々な「手立て」を講じましたか

〔小学校〕 「十分行った」「一部行った」 100% (98.0% : +2.0)

〔中学校〕 「十分行った」「一部行った」 100% (96.0% : +4.0)

○コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (89.1% : +10.9)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 91.7% (84.4% : +7.3)

○調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 92.0% (96.6%:-4.6)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (91.2%:+8.8)

○調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習について、児童（生徒）が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 92.0% (91.1%:+0.9)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (85.0%:+15.0)

○令和7年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (96.7%:+3.3)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 91.7% (93.6%:-1.9)

▼調査対象学年の児童（生徒）は、熱意をもって勉強していると思いますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 88.0% (88.9%:-0.9)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 58.3% (85.1%:-26.8)

▼調査対象学年の児童（生徒）は、礼儀正しいと思いますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 88.0% (85.4%:+2.6)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 75.0% (90.4%:-15.4)

▼ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されていますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 88.0% (88.4%:-0.4)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 75.0% (86.1%:-11.1)

▼調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 88.0% (88.1%:-0.1)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 75.0% (87.2%:-12.2)

▼調査対象学年の児童（生徒）は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 84.0% (78.9%:+5.1)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 66.6% (81.4%:-14.8)

▼調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 84.0% (91.2%:-7.2)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 75.0% (87.5%:-12.5)

報告：第12号

▼調査対象学年の児童（生徒）が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

〔小学校〕 「ほぼ毎日」「週3回以上」 32.0% (51.9%:-19.9)

〔中学校〕 「ほぼ毎日」「週3回以上」 25.0% (47.9%:-22.9)

▼児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

〔小学校〕 「毎日持ち帰り/毎日利用」「毎日持ち帰り/時々利用」 8.0% (43.2%:-35.2)

〔中学校〕 「毎日持ち帰り/毎日利用」「毎日持ち帰り/時々利用」 83.4% (53.2%:+30.2)

▼前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 44.0% (67.0%:-23.0)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 58.3% (72.0%:-13.7)

▼調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学校では、児童（生徒）が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童（生徒）の学習改善に生かしましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 80.0% (90.5%:-10.5)

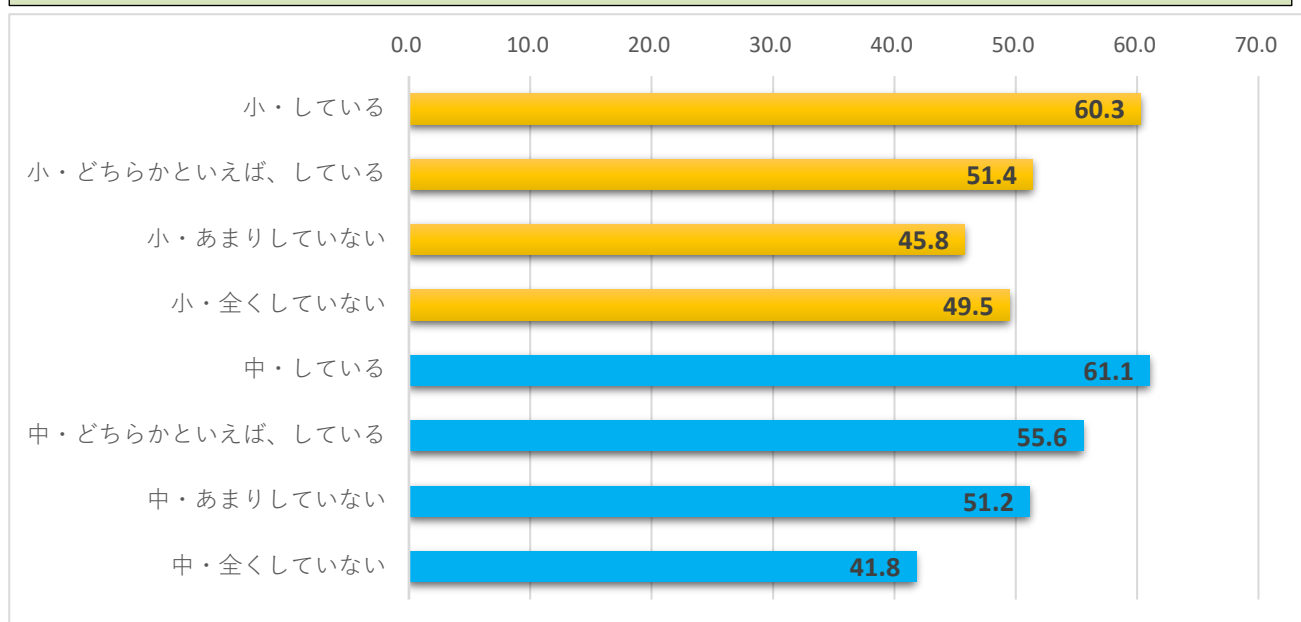
〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、行った」 91.7% (83.2%:+8.5)

資料1 平均正答率と質問調査の相関関係

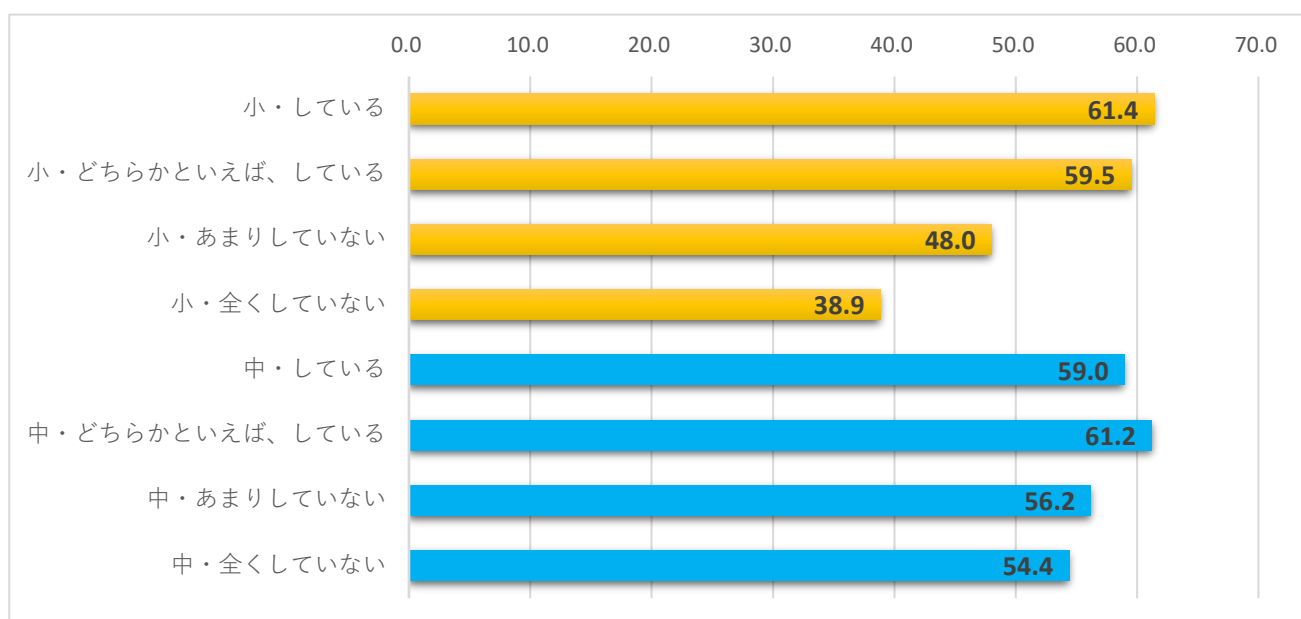
このグラフにおける「合計平均」は、平均正答率の和（国語、算数・数学の平均正答率の合計を2でわったもの。棒グラフが長いほど、全国学力・学習状況調査の結果（平均正答率）が高い。

＜基本的生活習慣等＞

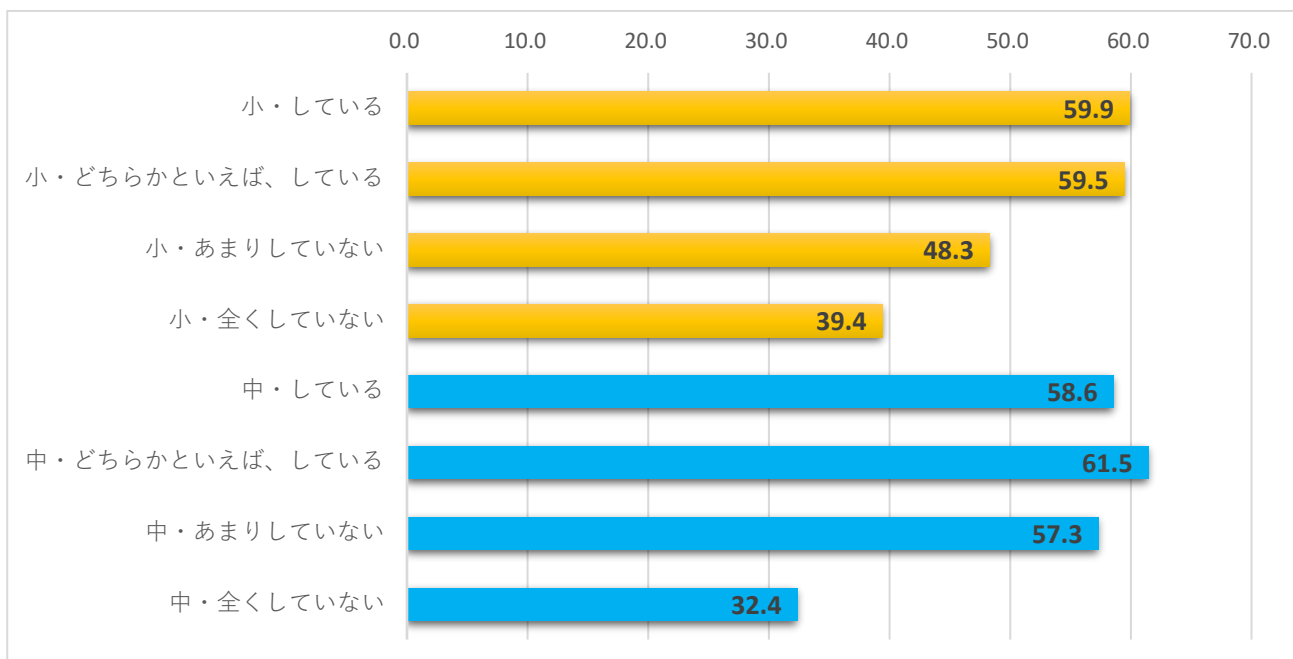
朝食を毎日食べていますか



毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



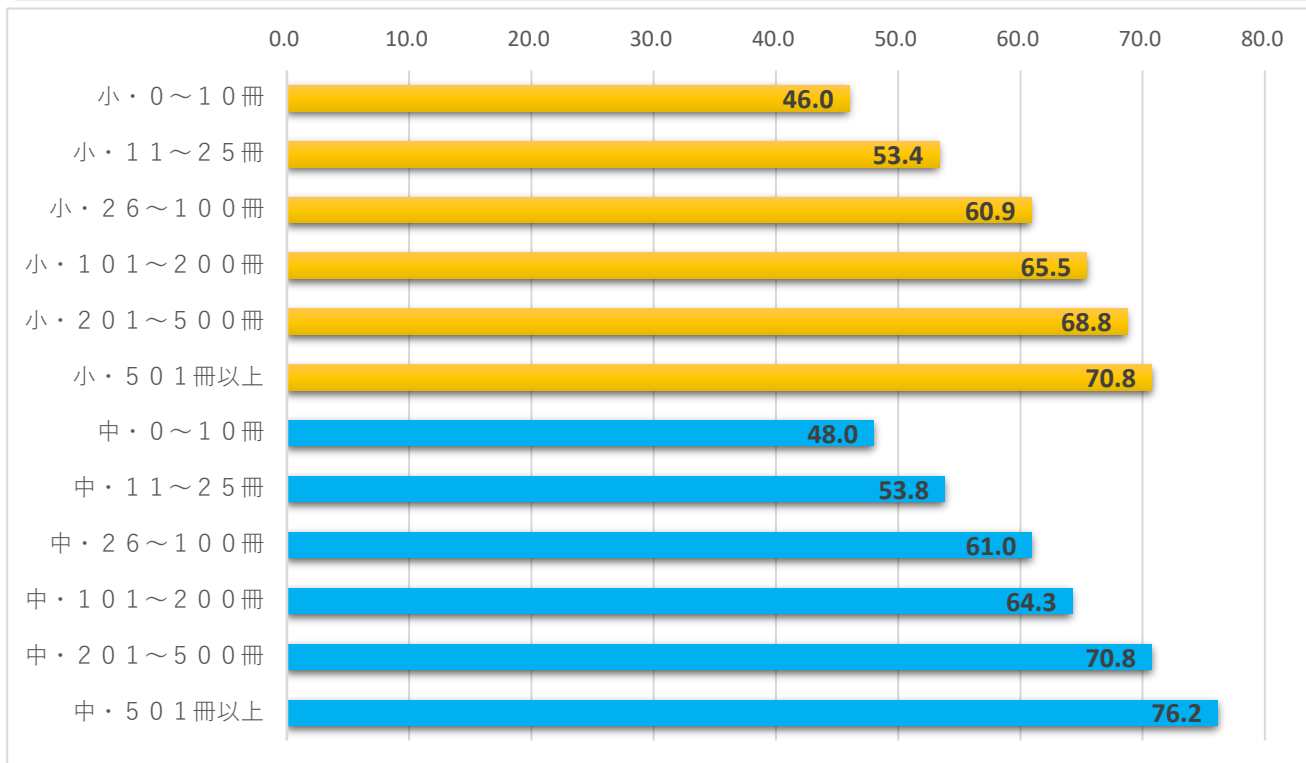
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



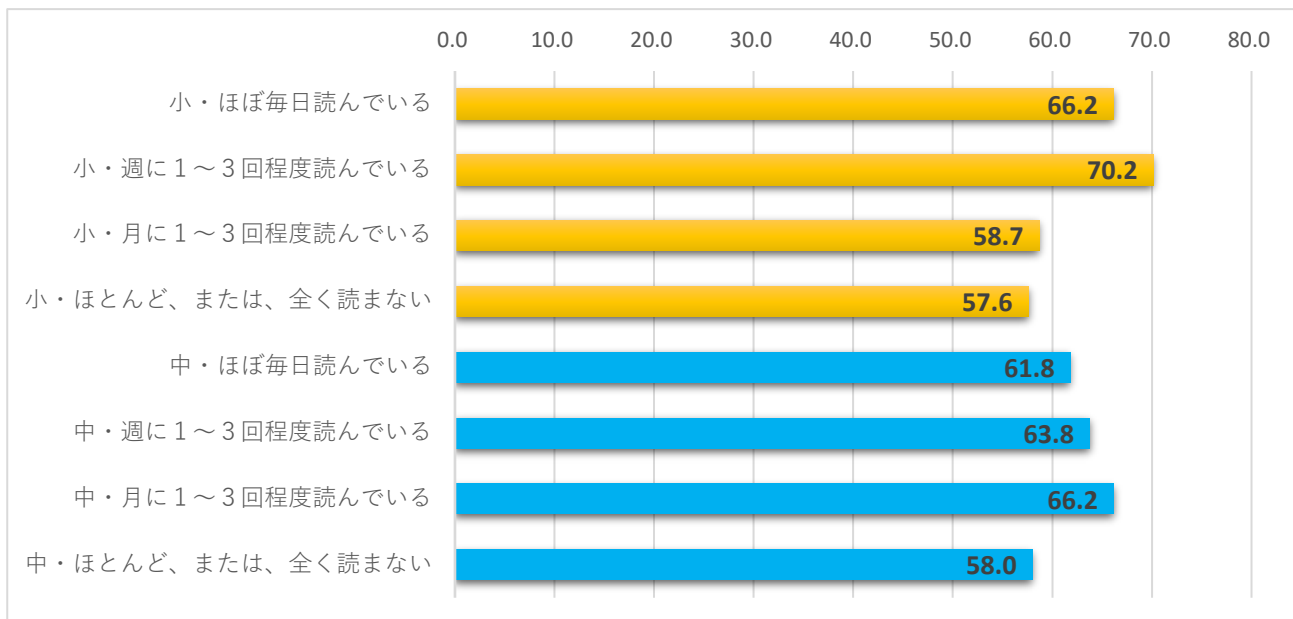
<学習習慣、学習環境等>

あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか

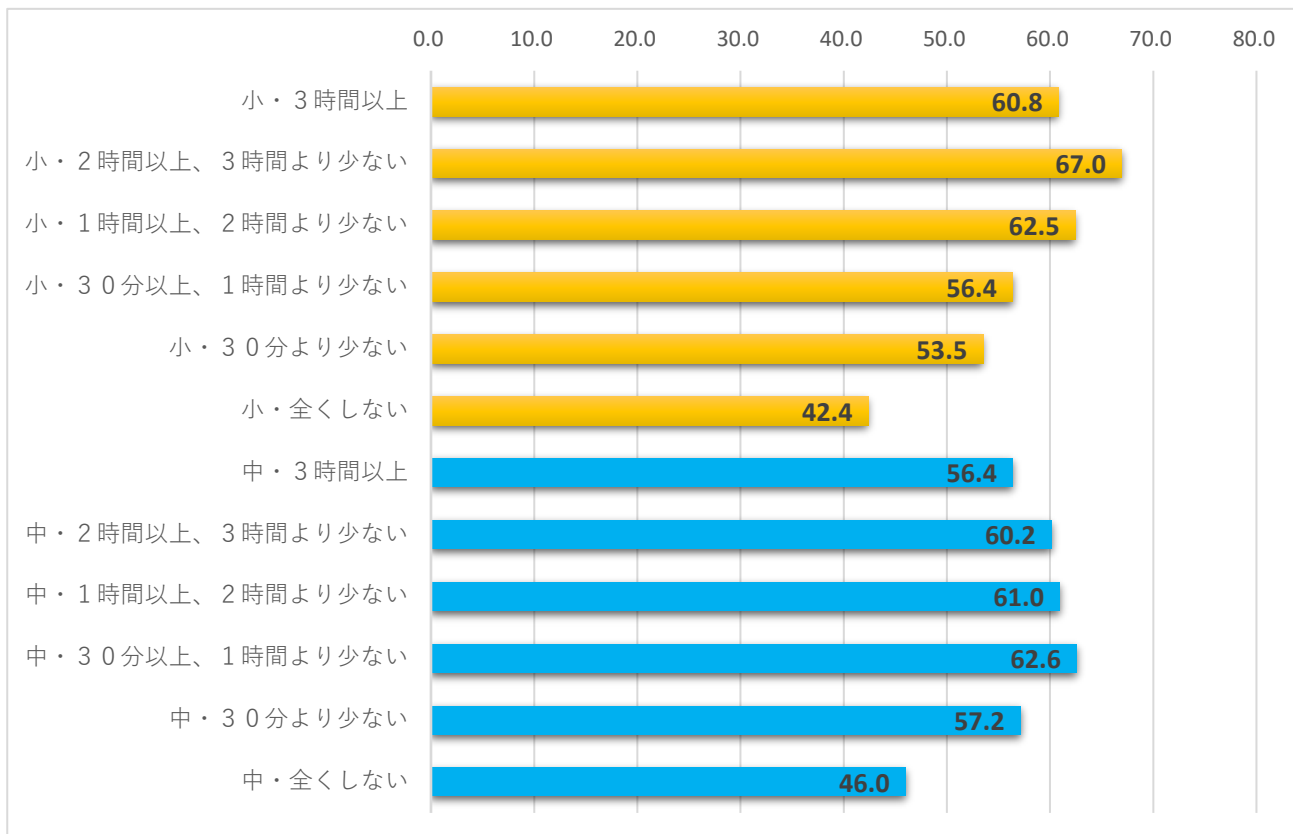
(一般の雑誌、新聞、教科書は除く)



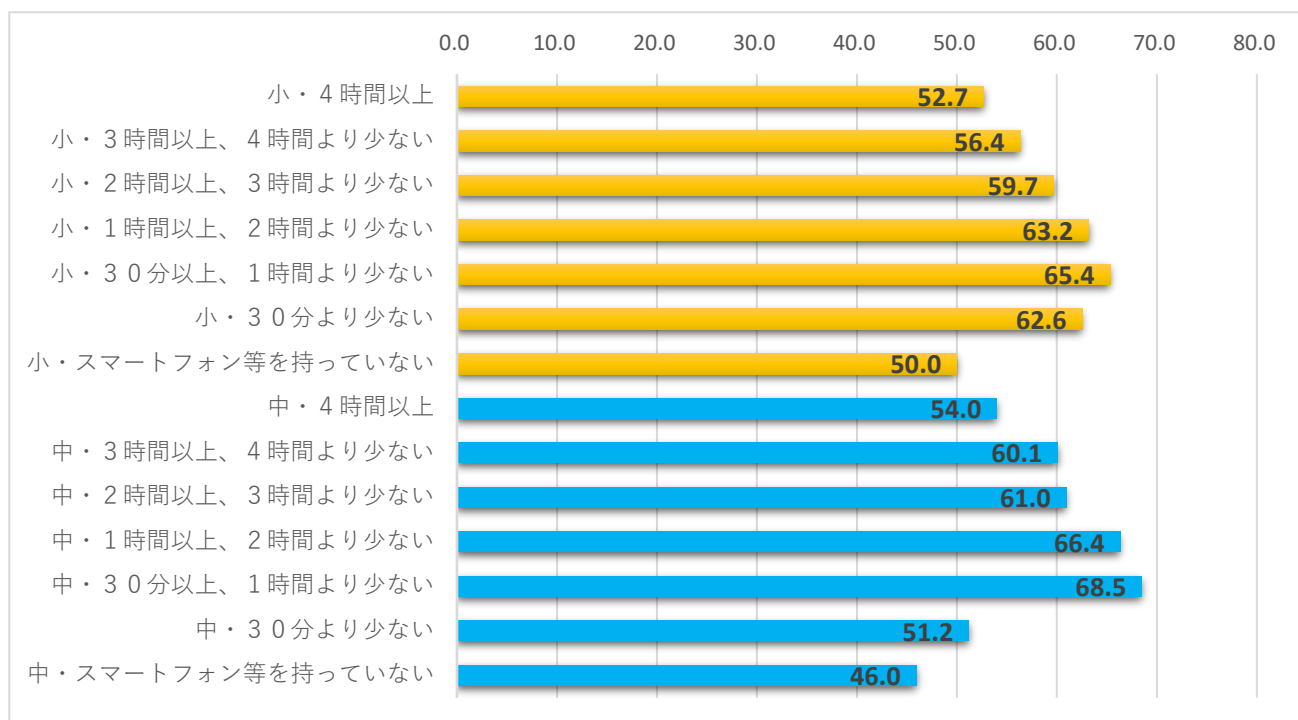
新聞をどれくらい読んでいますか



学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

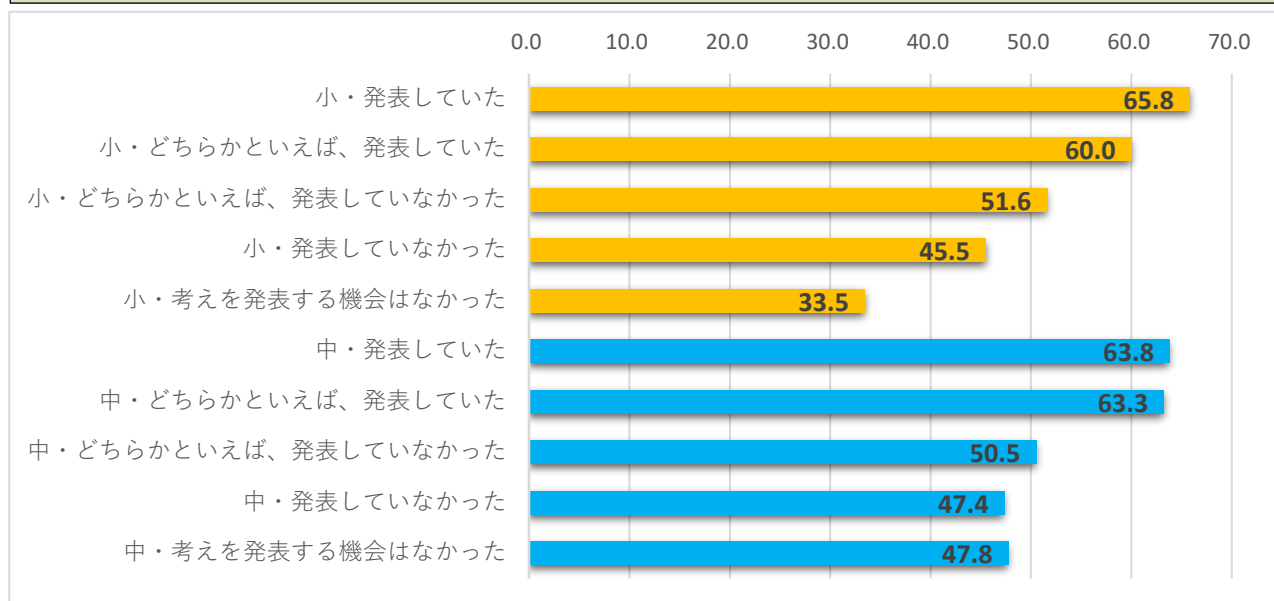


普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

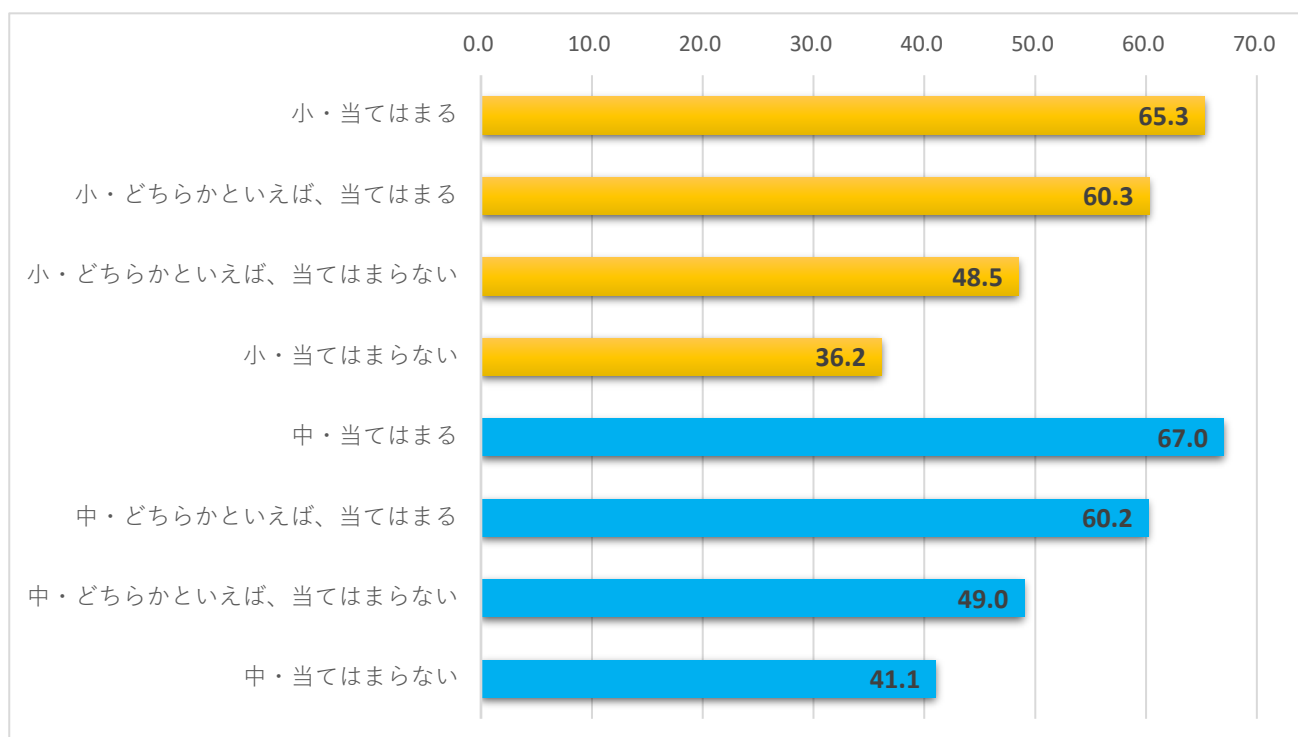


＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善・個別最適な学びに関する取組状況＞

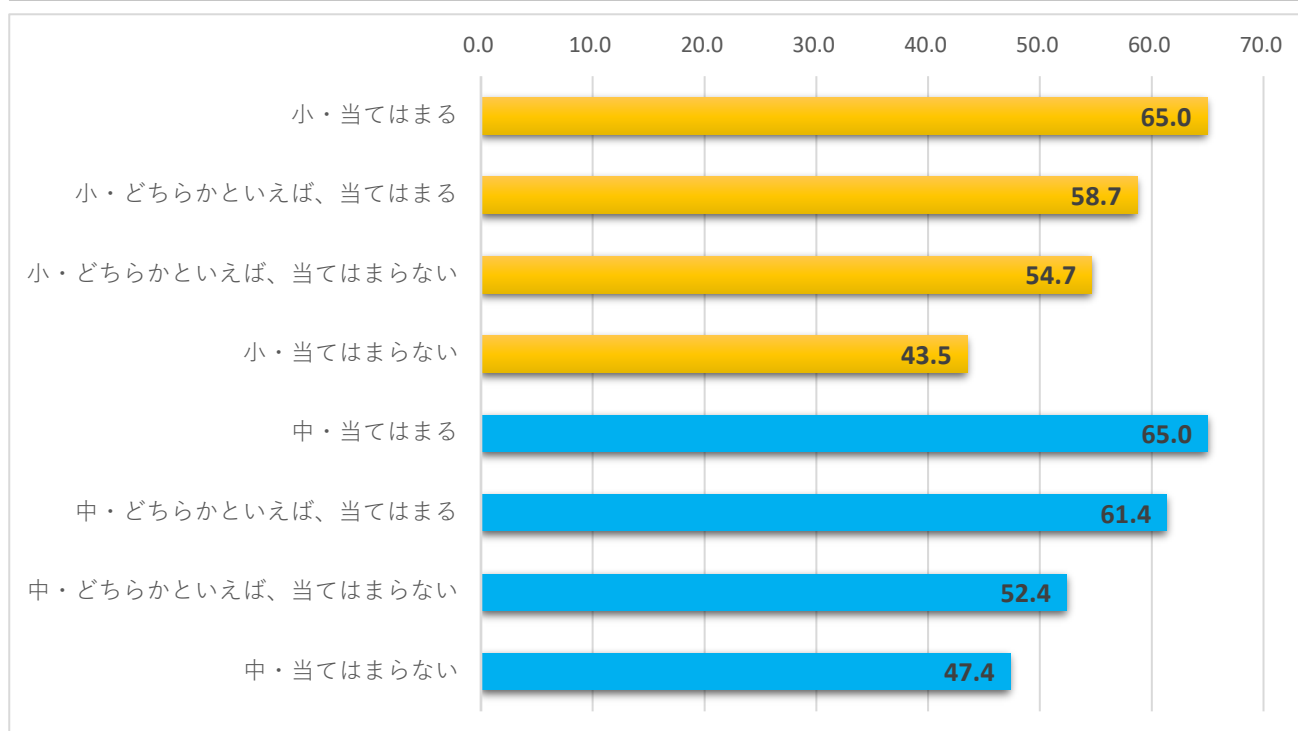
前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



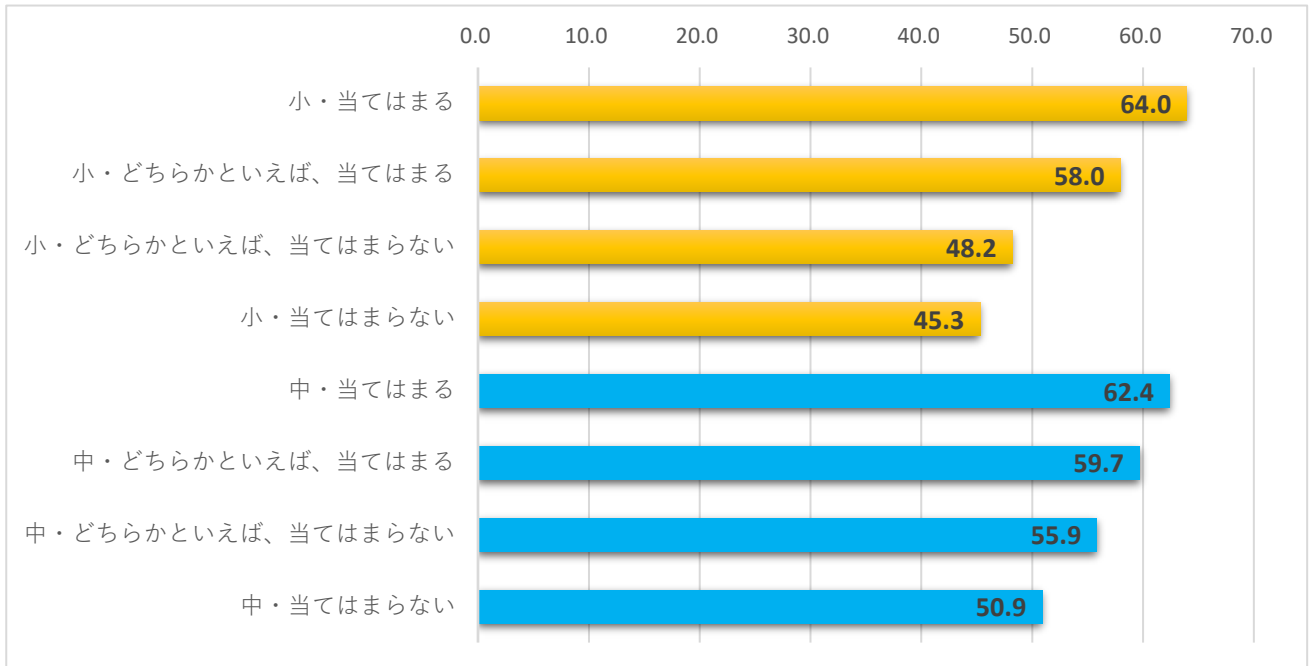
昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



昨年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

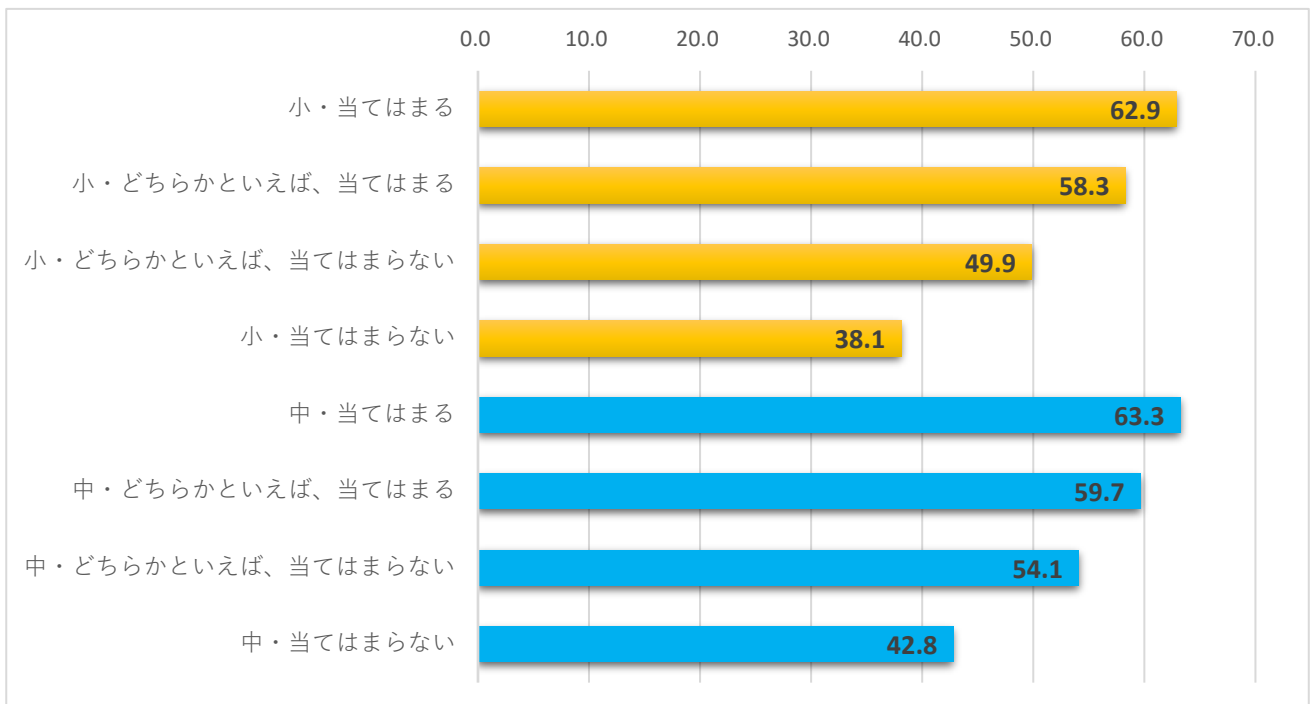


昨年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

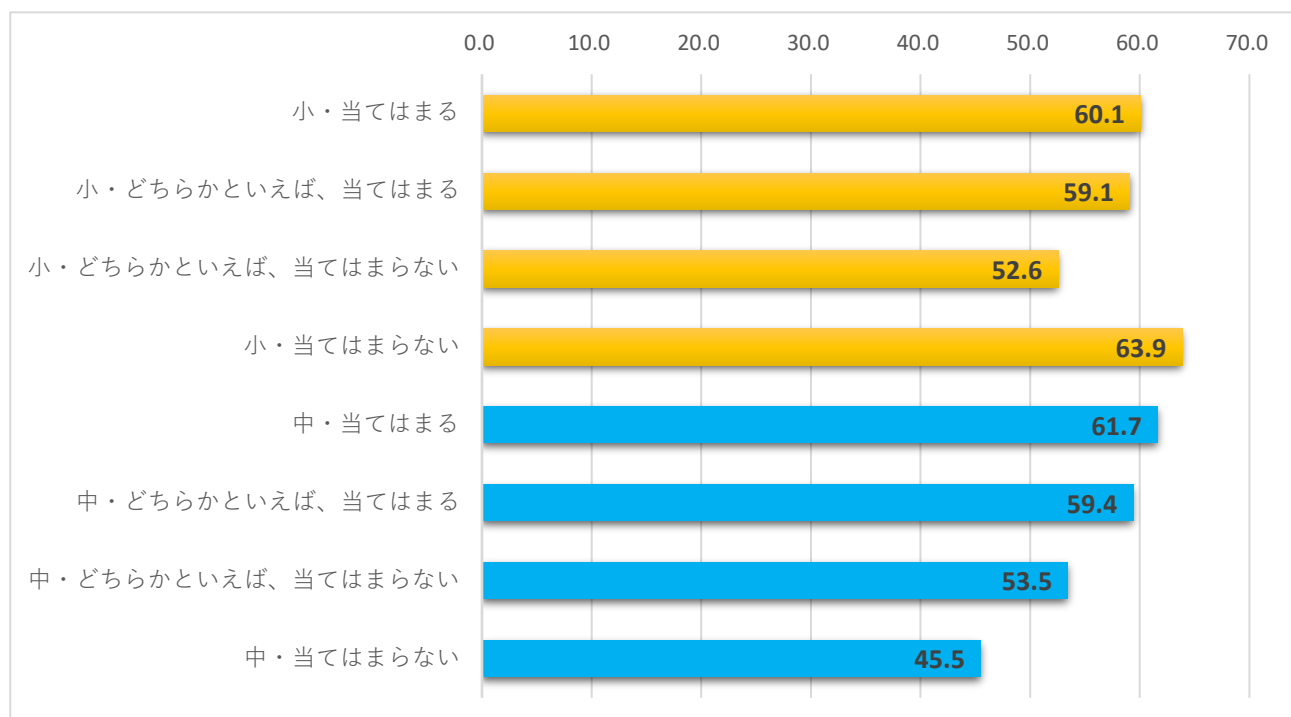


<総合的な学習の時間、学級活動>

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



資料2 令和8年度甲府市学校教育指導指針に関わって

令和8年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問調査や学校質問調査から、甲府市学校教育指導指針との関わりについて分析した。

〈肯定的な回答について〉

*国・県両方を上回っている（または同じ）…◎

*国もしくは県を上回っている（または同じ）…○

*国・県両方を下回っている …△

1 重点項目に関わる設問の回答状況

① 「生きる力」を育む教育課程の編成

質 問 事 項	肯定的な回答について	R8	R7
将来の夢や目標を持っている 〈児童生徒質問調査 小No.10 中No.10〉	小：国を上回る・県を下回る	○	○
	中：国を上回る・県を下回る	○	○
児童生徒の姿や地域の現状等に基づく教育課程の編成、 PDCA サイクルの確立 〈学校質問調査 小No.17 中No.17〉	小：国・県を上回る	◎	◎
	中：国・県を上回る	◎	△
特別支援教育への理解・特性に応じた指導の工夫 〈学校質問調査 小No.72 中No.80〉	小：国・県を上回る	◎	◎
	中：国・県を上回る	◎	△

② 確かな学力の育成

質 問 事 項	肯定的な回答について	R8	R7
習得・活用・探究の学習過程を見通した指導の工夫 〈学校質問調査 小No.34 中No.34〉	小：国を下回る・県を上回る	○	△
	中：国・県を上回る	◎	△
学級活動における一人一人の児童生徒が意思決定できる 指導の工夫 〈学校質問調査 小No.42 中No.42〉	小：国・県を下回る	△	◎
	中：国・県を上回る	◎	◎
特別の教科 道徳における児童生徒が自ら考え、話し合 うような指導の工夫 〈学校質問調査 小No.43 中No.43〉	小：国・県を上回る	◎	◎
	中：国・県を上回る	◎	◎
1人1台端末を活用した授業の頻度（週3回以上） 〈学校質問調査 小No.60 中No.68〉	小：国・県を上回る	◎	△
	中：国・県を上回る	◎	△
家庭学習の方法等の児童生徒への教授 〈学校質問調査 小No.81 中No.89〉	小：国・県を下回る	△	◎
	中：国・県を上回る	◎	◎

報告：第 1 2 号

③ 「思い遣る心」を育む生徒指導の推進の育成

質 問 事 項	肯定的な回答について	R8	R7
人が困っているときは、進んで助ける 〈児童生徒質問調査 小No.11 中No.11〉	小：国を上回る・県を下回る	○	○
	中：国・県を上回る	◎	○
いじめは、どんな理由があってもいけないと思う 〈児童生徒質問調査 小No.12 中No.12〉	小：国・県を上回る	◎	◎
	中：国・県を下回る	△	○
困りごとや不安を学校の大人に相談できる 〈児童生徒質問調査 小No.13 中No.13〉	小：国・県を上回る	◎	○
	中：国・県を上回る	◎	○
人の役に立つ人間になりたい 〈児童生徒質問調査 小No.14 中No.14〉	小：国を上回る・県を下回る	○	○
	中：国を上回る・県を下回る	○	△
自分と違う意見について考えるのが楽しい 〈児童生徒質問調査 小No.16 中No.16〉	小：国・県を上回る	◎	◎
	中：国を上回る・県を下回る	○	◎

④ 健康・体力の向上

質 問 事 項	肯定的な回答について	R8	R7
朝食を毎日食べる 〈児童生徒質問調査 小No.1 中No.1〉	小：国を上回る・県を下回る	○	◎
	中：国を上回る・県を下回る	○	△
毎日、同じくらいの時刻に寝ている 〈児童生徒質問調査 小No.2 中No.2〉	小：国・県を上回る	◎	◎
	中：国を上回る・県を下回る	○	○
毎日、同じくらいの時刻に起きている 〈児童生徒質問調査 小No.3 中No.3〉	小：国を上回る・県を下回る	○	◎
	中：国を上回る・県を下回る	○	◎

※普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上SNSや動画視聴をしている〈児童生徒質問調査 小No.4 中No.4〉割合は、小中ともに国・県の数値を上回り、多くの時間をSNSや動画視聴に費やしていることがわかる。

⑤ 信頼される学校づくりの推進

質 問 事 項	肯定的な回答について	R8	R7
教育活動への地域等の外部の資源の活用 〈学校質問調査 小No.18 中No.18〉	小：国・県を上回る	◎	△
	中：国・県を下回る	△	△
CSなどの取組を通じた保護者や地域との相互理解 〈学校質問調査 小No.79 中No.87〉	小：国・県を上回る	◎	◎
	中：国・県を上回る	◎	◎